

部門・資料編

1、演習林・苗畑・蘇門林の歴史

①演習林の設置から県有林へ

明治三四年木曾山林学校創立と同時に演習林設置の必要性が起り、翌三五年福島区有林を五分五分の分収契約のもとに山林学校演習林として設定した。

契約概要は明治三五年四月より向こう七〇年間を期限とし、地上権者は地代を払わず伐採木の売り上げを折半するものであった。演習林は二団地に分かれ、一つは学校に隣接する裏山演習林であり、もう一つは福島町中畑に接する大平山演習林である。

演習林設定当時は、ほとんど雑木雑草に覆われていたが、生徒が実習で植林を繰り返して美林の造成に努めた。生徒の実習だけでは植林が困難であるため、地元区民が協力してそのかわりに薪材を提供したという記録がある。

昭和八年の記録によればヒノキ二五町歩、カラマツ一〇町歩、アカマツ七町歩、サワラ二町歩、スギ二町歩、クスギ二町歩の林分が形成され、その代表的なものは、スギ、サワラで樹高二〇メートル、胸高直径二〇センチ、ヒノキで樹高一五〜二〇メートル、胸高直径一五センチであり、毎年間伐木千本、収入百余円となっている。

昭和十八年大平山演習林のカラマツが戦時の強制伐採によって皆伐された。しかし、戦後の二五年カラマツを造林し順調に生育している。

三六年校舎改築事業に関連して、長野県林務部において演習林の買い上げが行われ、県の所有するところになった。ここにおいて六〇年続いた地元区民との分収形態の演習林経営は終止符を打ち、県有

林となりこれを本校の演習林として使用することになり、覚え書きが交付され今日に至っている。

②苗畑

苗畑は大正時代、校舎裏の運動場のそばで、寄宿舎の側にあったが、運動場拡張等のために追われて、五カ所に分散した。第一号苗圃は寄宿舎炊事場の裏、第二・第三の苗圃は校門を出て右手に並び第四苗圃は記念公園と果樹園の間を通過して約二百メートル登ったところの五カ所で、合計面積約五〇アールある。

ここから山出し苗を約四万本生産し約百円の収入をあげている。昭和八年以来アカマツを筆頭に三〇余種、二〇万本の苗木が養成されてきた。

その後も演習林植林用の苗木として苗畑実習でヒノキやアカマツを大量に生産して供給し、演習林が県林務部移管後まで続いた。現在は演習林の植林用は林務部より供給されている。

カラマツの植林が叫ばれた昭和四〇年始め頃は中部電力の協力を得て、電熱床による挿し木の発根促進での苗木増産の研究も行われた。

現在は農業基礎の学習用に、苗畑を班毎に分割して、いろいろな作物を作り研究しながら実習している。

改築により以前の苗畑が無くなったため苗畑ををあちこち借用した。しかし次第に地主に返還を求められたり、林業大学の敷地となったりして面積が縮小した。今は国道より二百メートル上の所にまとまって、小面積ではあるが一から六号に分けて運営している。

③蘇門林

昭和三八年校舍全面改築が終わった段階で、時の蘇門会長中村治郎（16回）の発案により、木曾福島町新開黒川橋詰地区の区有林と蘇門会の間に、地区四分、蘇門会六分の分収契約が成立し、昭和四一年三月五日蘇門林が誕生した。

地拵え、新植が同窓生、生徒の手によって三年ほど繰り返され、カラマツ、ヒノキの林が成立した。その面積は八ヘクタールに及んでいる。それ以後毎年林業科の生徒によって総合実習の時間に保育作業が継続され順調な生育が続いている。

2、演習林の所在地、面積、地質

演習林は裏山演習林と大平山演習林に分かれ、それぞれ七つの林班と一つの林班に分けて経営されている。

演習林が林務部に移管になった昭和三十六年の実測面積は次の通りである。

裏山演習林

所在地 木曾福島町城山五八二〇番地（大沢、仲が沢、岩が沢）

木曾福島町城山五八二二番地（姥が沢、脇沢）

第一林班 九・七二〇ヘクタール

第二林班 九・四九五ヘクタール

第三林班 八・三六四ヘクタール

第四林班 一〇・一九七ヘクタール

第五林班 八・六六〇ヘクタール

第六林班 八・三六四ヘクタール

第七林班 三・二四〇ヘクタール

小計 五八・〇四〇ヘクタール

大平山演習林

所在地 木曾福島町小平裏五八二二番地

木曾福島町小平裏五八二五〇番地

第八林班 八・二六〇ヘクタール

裏山・大平山演習林合計面積

六六・三〇〇ヘクタール

地質

裏山演習林は北北東に面し二〇〜三〇度の傾斜地で、急斜地もあり日照は良くない。標高七八〇〜一八〇メートルに及び、基岩は粘板岩と硬砂岩よりなり、土壌は礫の多い砂壤土で、一般に崩壊しやすい所が多い。

大平山演習林は東向きの斜面で日照は良く、その他の条件は裏山演習林とほとんど同じである。

3、林況と動植物

当地は暖帯系樹種の自生北限であるため、演習林の樹種は非常に多岐にわたり五二科一〇四種といわれている。

そのうち主要なものは針葉樹で、ヒノキ、スギ、カラマツ、アカマツ、モミ、ツガ等で広葉樹はクリ、コナラ、カツラ、カエデ、ケヤキ等である。マルバノキ（ベニマンサク）、ヒカゲツツジの群落が見られるのが珍しい。尾根筋はスズダケの大群落であり第一林班にはブナが混じる。林相はヒノキを主とする人工林が大部分を占め、特に四、五林班は長年にわたる実習の成果で見事な林となって残っ

ている。一部崩壊のおそれのある制限林と第一林班には広葉樹が多く残っていて若葉や紅葉の時期には変わりなく美しい。また所々にモミ、ツガ、マツの昔ながらの大径木が残存している林相が目につく。

演習林にもカモシカが出没するようになり、生徒が教室の窓越しに眺めながら勉強しているが、時々目にふれる動物には、冬に罾をかけて捕った野ウサギやリス、ムササビ、タヌキ、キツネ、テン、ノネズミ類。熊も出て幹を引き掻いた跡があった。

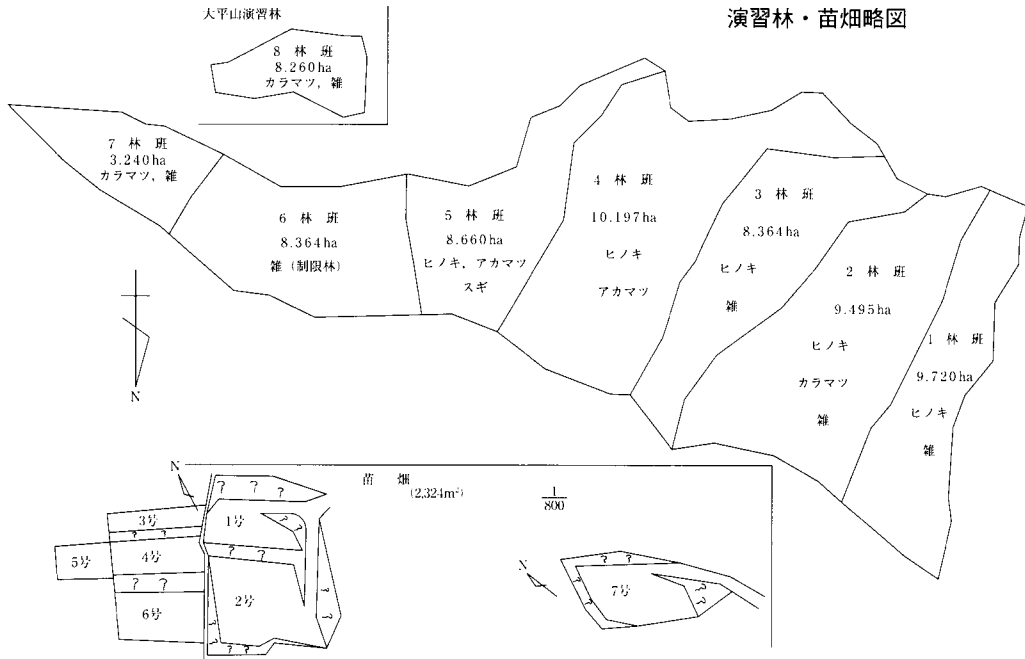
一林班のガラバにはマムシもいて実習のときによく捕っている。そのほかシマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシもよく見られる。

実習の時に耳をすましてよく聞いたさえずりや見た鳥は、ウグイス、アオゲラ、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、センダイムシクイ、キジバト、キツツキ、カケス、オナガ、キジ、ヤマドリ、ウソなどである。

変わったところでは、沢にサンショウウオが見られた。

斜面が北向きだったので食用茸は少なく四林班にチチダケ、オオウゴンダケ、二林班にコウタケ、三林班の岩場にイワタケが見られるくらいであった。変わったところでは光苔が見つかったことがある。

演習林・苗畑略図



4、裏山演習林調査簿

附大平山演習林 昭和十年七月現在
第三學年生調査作製

國	郡	村	大字	林小字	面積			積		地況		林況					摘				
					林	地	除	計	摘	地	摘	樹	疎	林	齡	林		材	積		平均
																			積	積	
信濃	西筑	福島	向城	裏山	大	1.い	1.848	0.024	1.872	立木	中	北、急斜、腐植質土、中軟適	ヒノキ	密	25	5	中標	98.00	180.65	7.226	同齡一齊林 未ダ撫育 ズ密ナル ハ甚大ナリ
					大	1.ろ	1.970	0.019	1.989	末立	下	北、急斜、北 面及東面ニ 隣接シ、ツ 際土、淺、乾	サ	ツ							本校所有地トナリ シヨリノ未立木 ニシテ、ホ、ク イチゴ、ニ、ガ イチゴ、クズ、 ウツギ、クマ ザサ等モ認ム
					大	1.は	3.508	0.047	3.555	末立	地	北、急斜、面 ニ隣接シ、 ヒノキ見、際 土、淺、乾	サ	ツ							ヨゲンミナバ リ、クイチゴ、 クイチゴ、ニ ガイチゴ等 多シ、本校 遠距離ノタ メ保護行 キ届カズ、
					大	1.に	2.481	0.075	2.556	末立	地	北、急斜、腐 植質土、中 軟適	サ	ツ							天然生ホ、ノ キ多シ
					小計	9.807	0.165	9.972													

國	郡	村	大字	林小字	面積			積		地況		林況					摘						
					林	地	除	計	摘	地	摘	樹	疎	林	齡	林		材	積		平均		
																			積	積		種	密
信濃	西筑	福島	向城	裏山	大	2.い	1.512	0.367	1.879	北急砂壤中	軟適	上除	立木	地	サ	密	34	12	中標	183.15	277.50	8.160	上長成長旺盛ナリ 樹高、12米余 木數ク數年前 伐ラ施行セル 形跡アリ
					大	2.ろ	0.287	0.287	0.287	北急砂壤中	軟適	中	立木	地	サ	粗	5	1	下標	103.00	61.00	2.01	風害林アリ
					大	2.は	0.601	0.002	0.603	腐植質壤土	傾斜中軟適	上	立木	地	ス	密	36	11	上標	90.00	63.00	3.15	蔓生植物稍繁茂 被害木アリ ハシキツガノ シヒキツガノ 當發生スルヲ 見ル
					大	2.に	1.0337	0.075	1.1087	砂壤北急腐	壤地多シ	中	立木	地	ヒ	密	5-25	23	6	中			昭和七八年度ノ 植栽地ナリ 高サ約0.6m 生長中
					大	2.は	0.7875	0.7875	0.7875	東北急粘壤	乾	中	立木	地	ヒ	中	6-5	1	中			昭和八九年度ノ 植栽地ハ高サ 約0.4m クリ、ソヨゴ、 コナラ、カヘ デ類、マン サク、タム シ、リヤウ ブシデ類、 エゴ、ゴン ゼツ、シロ モジ等ニ シテモミ 點生ス	
					大	2.へ	0.5670	0.5670	0.5670	北急壤中軟	適	上	立木	地	ヒ	中	5-4	1	中			生長西良シ カラズ	
					大	2.と	0.2632	0.2632	0.2632	北急砂壤淺	軟乾	中	立木	地	サ	疎	5	1	中				
					大	2.ち	0.540	0.540	0.540	北急砂壤淺	軟乾	下	立木	地	サ	疎	5	1	下				
					大	2.り	1.5705	1.5705	1.5705	北急粘壤		中	立木	地	サ	疎	7	2	下			ヒノキ點生ス	
					小計	7.1619	0.444	7.6059															

國	郡	村	大字	大字	大字	大字	面積			地況		林況															
							林	地	除	計	摘	地	摘	樹	混	疎	林	齡	林	材	積		平均	摘			
																					普通	準			限	積	總
業	業	業	積	積	樹	葉	葉																				
	西	福	向	巖	3	い	0.4335		0.1785	0.612	立木地	中	南東急、中 軟、適、砂壤	ヒノキ サハラ	0.6 0.4	密	23	6	中標	124.50	54.780	1.956	毎木混浴林ニ シテ人工植栽 ニヨル				
	濃	摩	島	山	3	ろ	1.161	0.0090	1.170	立木地	中	南東急、斜 中、軟、適、砂 壤	ヒノキ サハラ	0.6 0.4	密	25	5	中標	124.50	116.53	4.661	毎木混浴林ニ シテ人工植栽 ニヨル 昭和9年9月ノ 暴風ノ害ニ罹 ル					
					3	は	2.2045	0.0095	2.214	立木地	中	南東急、中 軟、適、砂壤	ヒノキ	0.6	中	22	5	中標	84.770	187.63	8.530	人工植栽ニヨ ル一齊林ナリ 列狀混浴林ニ シテヒノキノ 生長ハ良好ナ ルモアカマツ ハ稍劣ル					
					3	に	0.171		0.171	立木地	中	南東緩、中 軟、適、砂壤	ヒノキ アカマツ	0.6 0.4	中	12	3	中					昭和九年ノ風 害ニ罹リ相當 ノ根倒ヲ生ジ 今年全部處理 サレル				
					3	ほ	1.305		1.305	立木地	下	南東緩、淺 乾、粘	ヒノキ	0.6	疎	26	6	下目	58.50	76.34	2.936	人工植栽ニ依 ル					
					3	へ	0.2160		0.2160	立木地 ナレド	中	北東緩、砂 質土、軟、適	アカマツ	0.6	中	14	3	中標	69.330	14.975	1.609	人工植栽ニ依 ル					
					3	と	1.2248	0.0720	1.2968	立木地 ナレド 岩石地 崩壊等 有リ	下	北東緩、砂 壤中、軟、適	アカマツ	0.6	疎	12	3	下目	20.58	25.206	2.100	人工植栽ニ依 ルモ岩石地崩 壊地等多ク林 況悪シ					

國	郡	村	大字	大字	大字	大字	面積			地況		林況															
							林	地	除	計	摘	地	摘	樹	混	疎	林	齡	林	材	積		平均	摘			
																					普通	準			限	積	總
業	業	業	積	積	樹	葉	葉																				
					3	ち	0.216	0.007	0.223	立木地	中	南西、緩 粘土質、中、軟、適	アカマツ ヒノキ	0.4 0.6	密	19-22	6	中標	85.00	18.36	0.918	人工植栽ニシ テ植栽間伐行 ハレズ列狀混 浴林ナリ					
					3	り	0.3782	0.0018	0.380	立木地	中	東面急、斜 中、軟、適、粘 土質	ヒノキ	0.6	疎	7	1	中				昭和6年度植 栽					
					3	ぬ	0.5016	0.0024	0.504	立木地	中	東北、急 斜、深、軟、適、腐植 土	サツ	0.6	密							主ナル樹種ハ ククリ、カヘデ ソヨゴコナラ クマシデ、ア カシデアヲハ ダ					
					3	る	0.702		0.702	立木地	中	東面斜急 中、軟、適、粘 土質	サツ	0.6	密							樹種ハ小班ニ ニ準ズ					
					小計		8.5136	0.2802	8.7938										493.	821							

國	郡	村	大字	林小字	林班	面積				地況		林況										
						林業地 普通 ヘクタール	制限地 制限地 ヘクタール	除地	計	摘地	摘地	樹種及混	交歩密	疎林	齡級	材積調査	材積			平均生長量	摘生	
																	毎ヘクタール	立方メートル	立方メートル			
濃	西筑摩郡	向島	丸山	小字	4い	0.323			0.323	立木地	中	砂壤中、軟、適	スギ	中	23	5	中標	331.200	126.358	5.364	生長良好	
						0.773			0.773	立木地	中	砂壤中、適、緩	ヒノキ	疎	18	4	中標	135.320	104.602	5.811	雑木多シ	
						0.316			0.316	立木地	中	砂壤中、適、急	スギ ヒノキ	0.4 0.6	密	20 18	4	中標	67.392 101.068	22.236 31.937	1.115 1.773	雑木多シ
						1.228			1.228	立木地	中	砂壤急、中、軟、乾	ヒノキ	0.8	密	25	5	中標	161.189 40.472	181.821 49.699	7.264 5.787	林相甚悪
						0.522			0.522	立木地	中	北急、砂壤土中、適	アカマツ	0.8	中	20-25	5	中標	153.963 41.333	80.368 21.586	3.653 0.980	混交林
						1.452	0.003		1.455	立木地、除地ハ林道	上	北緩、粘質土、深、軟、適	ヒノキ	0.2	密	28	6	上標	373.640	542.525	13.653	一齊林
						1.435	0.004		1.439	立木地、除地ハ林道	中	急砂壤中、軟、乾	ヒノキ	0.7	中	23	5	中標	203.973 42.533	292.70 61.033	12.706 2.654	混交林 雑木多シ
						1.003	0.011		0.894	立木地、除地ハ林道	中	緩粘質土中、軟、乾	アカマツ	0.3	中	23	4	中標	42.533	61.033	2.654	雑木多シ
						0.319	0.002		0.321	立木地、除地ハ林道	中	北東急、砂、中、軟、乾	アカマツ	疎	13	3	中標	30.300	9.680	0.740	雑木多シ	

國	郡	村	大字	林小字	林班	面積				地況		林況											
						林業地 普通 ヘクタール	制限地 制限地 ヘクタール	除地	計	摘地	摘地	樹種及混	交歩密	疎林	齡級	材積調査	材積			平均生長量	摘生		
																	毎ヘクタール	立方メートル	立方メートル				
				一本杉	4ぬ	0.393			0.393	立木地除地ハ林道	中	北東、乾急、砂、中	ヒノキ	0.8	密	26	5	中標	292.200 32.300	59.148 9.447	2.274 0.590	混交林	
						1.430			0.028	1.458	立木地除地ハ林道	上	北東、潤粘質、深	ヒノキ	0.2	密	14	3	上標	84.200	73.240	5.230	一齊林生長良好
						0.495			0.016	0.511	立木地除地ハ林道	中	東、濕、急砂質	ヒノキ	中	17	4	中標	86.200	42.669	2.570	一齊林	
						0.215			0.004	0.219	立木地除地ハ林道	中	北東、緩粘質、深	ヒノキ	密	21	5	中標	190.08	40.867	1.460	一齊林生長良好	
						0.180			0.180	立木地	中	北、緩、砂質、中、軟、適	ヒノキ	疎	15	3	中標	150.900	27.810	0.185	生長緩		
						1.215			0.015	1.230	立木地除地ハ林道	中	北土、緩粘質、深、軟、適	ヒノキ マツ	0.6 0.4	密	10	2	中標	23.680	22.572	2.257	混交林
						0.417			0.022	0.439	立木地	中	北、急、砂質、淺、軟、濕	ヒノキ	0.9	密	10	2	中標	22.680	9.452	0.945	混交林
						1.201			0.019	1.220	除地ハ林道	中	粘、壤土中、軟、適	ヒノキ	中	18	中標	129.200	157.495	8.741	モミ混生		
						小計	12.816	0.146	12.962										1967.246				

國	郡	村	大字	林小	林小	面積			地況		林況						平均生長量	摘						
						林	地	除	計	摘	地	摘	樹	疎	林	材			材					
																			積	積	積	積	積	積
信濃	西筑摩	福向	向	5い	0.834			0.834	立木	上	西急、砂礫深軟、濕	スギ	中	25	5	上	毎	60.00			2.400	人工林地床ニハ		
		向	向	5ろ	0.405			0.405	立木	中	北急、礫壤中、軟乾	ヒノキ	疎下部	30	6	中	毎	50.00			1.670	一齊林イワカミ		
		向	向	5は	1.638	0.019	1.657	1.657	立木	中	西北急、斜、砂礫、軟、適	アカマツ	疎上部	13	3	中	標	30.33			3.312	一齊林		
		向	向	5に	0.248	0.001	0.249	0.249	同	上	北急、斜、砂礫、土、軟、適	アカマツ	疎上部	14	3	中	標	84.20			1.490	杉ノ母樹散生ス		
		向	向	5ほ	0.369	0.010	0.379	0.379	同	上	北急、砂礫、軟、適	カラマツ	疎上部	15	3	中	標	28.50			0.498	一齊林ト通リハ生長緩中腹ハ良		
		向	向	5へ	1.350			1.350	立木	上	西北急、礫壤中、軟、乾	ヒノキ	中	9	5	上								福向町火災ノ際ノ焼跡地ナリ
		向	向	5と	0.504			0.504	立木	中	西北急、礫壤中、軟、乾	アカマツ	中	16	4	中	目	45.00			2.81	モミ、ツガノ老木點生、東ニ推芽栽培地アリホ、ノキ、クリ、混生ス		
		向	向	5ち	0.533			0.533	立木	中	東北急、礫壤、淺、軟、濕	ガツ	中			中							下部ハ水路ニ隣ル	
		向	向	5り	0.238			0.238	立木	中	北急、礫、淺、軟、濕	ヒノキ	疎	15	5	中	毎	40.48			1.750	天然混交林ツガノ老木點生中部ニオカラハナ見ユ		
		向	向	5ぬ	0.504			0.504	立木	中	西北急、礫、淺、軟、濕	クリ	疎	10	2	中	目	40.00	30.00	10.00	4.000	カヘデ類ミヅギハ特ニ澤山現ル		
		向	向	5る	0.500			0.500	立木	中	西北急、砂質壤土、砂、礫、軟、濕	ヒノキ	疎			中								
				小計	7.263			0.030	7.293											30.00	10.00			

國	郡	村	大字	林小	林小	面積			地況		林況						平均生長量	摘						
						林	地	除	計	摘	地	摘	樹	疎	林	材			材					
																			積	積	積	積	積	積
信濃	西筑摩	福向	向	6い	0.108			0.108	木立	中	東北緩斜砂礫壤、乾、南方ハ境界ス	ヒノキ	中	8	2	中								皆伐跡地ノ人工植栽、保護樹ナシ、生長状態可シ、クモギクロモン、サク、ムラサキ、ブ等ノ雜木密生ス
		向	向	6ろ	0.702	0.009	0.711	0.711	木立、除地ハ林間道及林間苗圃ナリ(アカマツ)	中	北而急斜肥沃南方ハ境界ス	アカマツ	疎	22	5	中	目	52.10	37.474			1.703	人工林、東ハ灌木ト境シ南北部ハ成長稍不良	
		向	向	6は	2.924	0.028	2.952	2.952	立木、除地ハ推芽栽培場所及ニヶ壊地ナリ	中	北而急斜礫壤深適	クリ	0.6	21	5	中	標	32.40		94.73	4.484	人工林、クモギノ中ニハ風害木アルヲ見ル		
		向	向	6に	1.800			1.800	雜木密生	中	北而險礫壤淺	ガツ	中			中							モミ、ツガノ大木及ヒノキ、サハラノ天然生點生ス	
		向	向	6ほ	0.414			0.414	雜木密生	下	北險礫、下	ガツ	下			下							小計ニ同一ナルモ、モミ、ツガノ大木少シ	
				小計	5.943			0.037	5.985											37.474	94.737			

國	郡	村	大字	小字	林班	面積			地況		林況												
						林業地 普通地	制限地 制限地	除地	計	摘 要	地 位	地 況 要	樹種 及	混交 歩合	疎密 度	林齢	林級	材積 調査 別	材積			平均 生長 量	摘 要
																			總				
																			毎ヘクタール 立方メートル	總 立方メートル	總 立方メートル		
信濃	西筑摩郡	福島町	向山	小字	7イ	0.855		0.027	0.882		中	東北急、砂壌、軟	カラマツ	0.5	5-30	4	中目	61.25		50.24	2.90	雑木中ニアカマツカラマツノ混交アリ	
					7ろ	1.331		0.010	1.341	崩壊地ヲ含ム	中	東北急、砂壌中軟	サクラ	疎	10	2	中					御大典記念昭和四年度植栽	
					7ハ	2.088		0.054	2.142	崩壊地ヲ含ム	中	東北急、砂壌中軟	カラマツ	中	30	6	中					御大典記念昭和五年度植栽	
					7キ	0.174		0.006	0.180		中	東北急、砂壌中軟	サクラ	疎	17	3	中					御大典記念昭和六年度植栽	
					7ヒ	0.279		0.126	0.405	崩壊地ヲ含ム	中	東北急、砂壌中軟	サクラ	疎	9	2	中					御大典記念昭和六年度植栽	
					7ヘ	0.278		0.126	0.404		中	東北急、砂壌	ヒノキ ザツ	0.3 0.8	5-35 21	5	中目	53.23	4.00	10.50		雑木中ニヒノキノ群狀混交アリ	
					小計	56.5055		0.349	5.354										4.00	60.74			
					計	56.5055		1.4515	57.9657										3114.691	165.477			

國	郡	村	大字	小字	林班	面積			地況		林況												
						林業地 普通地	制限地 制限地	除地	計	摘 要	地 位	地 況 要	樹種 及	混交 歩合	疎密 度	林齢	林級	材積 調査 別	材積			平均 生長 量	摘 要
																			總				
																			毎ヘクタール 立方メートル	總 立方メートル	總 立方メートル		
信濃	西筑摩郡	大平山	大山	小字	8イ	7.104		0.193	7.297	造林地ハ中、崩壊地	中	東北急、砂壌中、適濕	カラマツ	中	35	3	中	20.636	146.51		4.31	生長一般ニ良好ナレドモ中央部以北ハ稍不良 雑木多シ樹下ニハ 雑木多シニハ風ノ被害アリ	
					8ろ	.150		0.150	0.150	天然生育地	中	東北急、砂、軟、適濕										雑木密生ス	
					計	7.104	0.150	0.1900	7.444										146.51				

『蘇門会報』178号（昭和10年）

5、裏山演習林樹木目録

科	種	科	種	科	種	科	種	
イチイ科 イスガヤ科 マツ科	イチイ ハイイスガヤ モミ カラマツ アカマツ ヒメコマツ ツガ スギ コウヤマキ ヒノキ サワラ ネズミサシ ヤマナラシ バッコヤナギ (ヤマネコヤナギ) イスコリヤナギ オノエヤナギ オニグルミ サワグルミ ヤマハンノキ オオバヤシヤブシ アズサ(ミスメ) (ヨグソミネバリ) シラカンバ ウダイカンバ サワシバ クマシデ アカシデ イスシデ ツノハシバミ アサダ クリ ミズナラ (オオナラ) コナラ ブナ クスギ エゾエノキ	クワ科 ビヤクダン科 フサザクラ科 カツラ科 メギ科 アケビ科 モクレン科 クスノキ科 ユキノシタ科	ハルニレ オヒヨウ ケヤキ コウゾ ヤマグワ カジノキ ツクバネ フサザクラ カツラ メギ アケビ ミツバアケビ ホオノキ タムシバ マツブサ クロモジ ダンコウバイ アブラチャン シロモジ ウツギヒメ ウツギ コアシサイ タマアジサイ ヤマアジサイ ノリウツギ ツルアジサイ (ツルデマリ) バイカウツギ ウラジロウツギ イワガラミ ミヤマトサミズキ (コウヤミズキ) マルバノキ (ベニマンサク) マンサク ザイフリボク ヤマブキ ズミ	カマツカ (ウシコロシ) エドヒガン オオヤマザクラ ヤマザクラ カスミザクラ (ケヤマザクラ) チヨウジザクラ ミヤマザクラ イヌザクラ ウワミズザクラ ノイバラ モミジイチゴ ナガバモミジイチゴ ニガイチゴ クマイチゴ ナワシロイチゴ クロイチゴ クサイチゴ バライチゴ ウラジロイチゴ ナンキンナナカマド フジキ ユクノキ ヤマハギ キハギ イヌエンジュ クズ ニセアカシア フジ イヌサンショウ コクサギ キハダ ツルシキミ サンショウ ニガキ ツタウルシ ヌルデ ヤマウルシ ウリカエデ コミネカエデ ウリハダカエデ	マメ科 ミカン科 ニガキ科 ウルシ科 カエデ科	オガラバナ ヒトツバカエデ (マルバカエデ) カラコギカエデ イタヤカエデ エンコウカエデ タカオモミジ オオモミジ ヤマモミジ ヒナウチワカエデ ハウチワカエデ コハウチワカエデ チドリノキ ミツデカエデ メグスリノキ ミツバウツギ トチノキ アワブキ ミヤマホウソ アオハダ ソヨゴ ウメモドキ ツルウメモドキ オニツルウメモドキ サワダツ ニシキギ ツルマサキ ツリバナ マユミ クマヤナギ イソノキ クロツバラ クロウメモドキ ノアドウ ツタ ヤマブドウ サンカクズル シナノキ サルナシ マタタビ キブシ ウリノキ	ミツバウツギ科 トチノキ科 アワブキ科 モチノキ科 ニシキギ科	オガラバナ ヒトツバカエデ (マルバカエデ) カラコギカエデ イタヤカエデ エンコウカエデ タカオモミジ オオモミジ ヤマモミジ ヒナウチワカエデ ハウチワカエデ コハウチワカエデ チドリノキ ミツデカエデ メグスリノキ ミツバウツギ トチノキ アワブキ ミヤマホウソ アオハダ ソヨゴ ウメモドキ ツルウメモドキ オニツルウメモドキ サワダツ ニシキギ ツルマサキ ツリバナ マユミ クマヤナギ イソノキ クロツバラ クロウメモドキ ノアドウ ツタ ヤマブドウ サンカクズル シナノキ サルナシ マタタビ キブシ ウリノキ
ニレ科		バラ科				キブシ科 ウリノキ科		
ブナ科		マンサク科						

科	種	科	種
ウコギ科	コシアブラ ヒメウコギ ヤマウコギ タラノキ タカノツメ ハリギリ クマノミズキ ミズキ	コバノガマズミ ミヤマガマズミ オオカメノキ カンボク オトコヨウゾメ ヤブデマリ ゴマキ ナガバノコウヤボウキ ミヤコザサ ヤマカシユウ サルマメ	
ミズキ科	ヤマボウシ ハナイカダ リョウブ ネジキ	キク科 イネ科 ユリ科	
リョウブ科 ツツジ科	ツリガネツツジ トウゴクミツバツツジ ヒカゲツツジ バイカツツジ ヤマツツジ ホツツジ ウスノキ ナツハゼ アクシバ サワフタギ タンナサワフタギ オオバアサガラ エゴノキ ハクウンボク アオダモ (コバノトネリコ) ミヤマイボク アラゲアオダモ マルバアオダモ フジウツギ ムラサキシキブ クサギ		
ハイノキ科 エゴノキ科 モクセイ科	ツクバネウツギ ベニバナツクバネウツギ ヤマウゲイスカグラ スイカズラ キンギンボク ニシキウツギ ニワトコ ガマズミ		

6、農業クラブ各種大会結果

一九八〇年(昭和55年)

○全国大会(東京都)

水準測量 【優秀賞】

森口雅之 森 孝之 沢田清久
奥原茂保

一九八一年(昭和56年)

○全国大会(岩手県)

農業鑑定(林業科)

水準測量 【優秀賞】

【優秀賞】 倉本 栄
山田順二 青木 茂 浜 克樹
永瀬庄栄

一九八二年(昭和57年)

○全国大会(山口県)

農業鑑定(林業科)

一九八三年(昭和58年)

○全国大会(福岡県)

農業鑑定(林業科)

○県大会(南安曇農業)

水準測量 【最優秀賞】

【最優秀賞】 渡辺 孝
中 勝幸 井口 智 塚本 保
藤原敬一

一九八四年(昭和59年)

○全国大会(長野県)

農業鑑定(林業科)

水準測量 【優秀賞】

【最優秀賞】 中村 悟
巾 勝幸 大橋孝宏 小林敏樹
安田勇次 井口 智

○県大会(南安曇農業高校)

水準測量 【優秀賞】 大橋孝宏 小林敏樹 中村 悟

安田勇次

一九八五年(昭和60年)

○全国大会(北海道)

農業鑑定(林業科) 【最優秀賞】 西路 博

一九八六年(昭和61年)

○全国大会(奈良県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 西路 博

平板測量 【優秀賞】 狩戸知喜 蒲沼 稔 牧 慎也

池上正孝

○県大会(下伊那農業高校)

意見発表B 【最優秀賞】 小松 実

一九八七年(昭和62年)

○全国大会(福島県)

農業鑑定(林業科) 【最優秀賞】 田中義治

○県大会

意見発表B 【優秀賞】 可知光輝

意見発表C 【優秀賞】 家高千枝

水準測量 【優秀賞】 谷口直幸 田中義治 村井正仁

此尻智徳

一九八八年(昭和63年)

○全国大会(島根県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 家高千枝

○県大会(下高井農林高校)

意見発表B 【最優秀賞】 上野文紀

意見発表C 【優秀賞】 高山暁美

一九八九年(平成元年)

○全国大会(大分県)

農業鑑定(林業科) 【最優秀賞】 青木浩二

○県大会

意見発表B 【優秀賞】 遠山真奈美

意見発表C 【優秀賞】 高山暁美

平板測量 【優秀賞】 清水俊幸 末松厚志 征矢 徹

中畑 勉

一九九〇年(平成2年)

○全国大会(東京都)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 河口 晃

○県大会(上伊那農業高校)

意見発表B 【優秀賞】 古幡美由紀

一九九一年(平成3年)

○全国大会(新潟県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 尾羽林英樹

一九九二年(平成4年)

○全国大会(和歌山県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 高山明雄

○県大会(須坂園芸高校)

意見発表B 【優秀賞】 荻村実苗

意見発表C 【優秀賞】 中西保敬

一九九三年(平成5年)

○全国大会(愛知県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 宮下貴弘

○県大会(南安曇農業高校)

プロジェクト発表B 【優秀賞】 中島和美 古田和夫

熊田 正 稗田和孝

意見発表A 【優秀賞】 古畑伸一

意見発表C 【優秀賞】 尾崎琴音

(木曾山林高校)

平板測量 【優秀賞】 上田岳史 古畑伸一 三沢徳彦

一九九四年(平成6年)

○全国大会(香川県)

農業鑑定(農業土木科) 【優秀賞】 原 靖

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 熊田 正

○県大会(下伊那農業高校)

意見発表B 【優秀賞】 山本 仁

一九九五年(平成7年)

○全国大会(栃木県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 圃中正法

○県大会(北佐久農業高校)

クラブ活動発表 【優秀賞】 湯川篤寛 橋渡雅志 道下哲史

意見発表B 【優秀賞】 西村まさ子

一九九六年(平成8年)

○全国大会(青森県)

農業鑑定(造園科) 【優秀賞】 丸山恵一

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 塚本公志

一九九七年(平成9年)

○全国大会(鳥取県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 松原洋平

農業鑑定(造園科) 【優秀賞】 丸山恵一

○北信越大会(福井県)

プロジェクト発表B 【優秀賞】 首藤正典

○県大会(木曾山林高校)

プロジェクト発表B 【最優秀賞】 伊藤絵美 中黒あけみ

伊藤絵美 湯川晃伸

堅道裕佳 住 孝治

庄原理恵 住 孝治

○県大会(木曾山林高校)

平板測量 【優秀賞】 上田 聡 織田拓三 丸山恵一

松原 洋平

意見発表C 【優秀賞】 伊藤絵美

一九九八年(平成10年)

○全国大会(北海道)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 伊藤絵美

○県大会(上伊那農業高校)

プロジェクト発表B 【優秀賞】 湯川晃伸 住 孝治

永井秀一 堅道智昭

古畑直人 小澤由幸

大目 匠 長島洋介

意見発表B 【最優秀賞】 野口律子

意見発表C 【優秀賞】 伊藤絵美

○北信越大会

意見発表B 【優秀賞】 野口律子

一九九九年(平成11年)

○全国大会(富山県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 伊藤麻矢

農業鑑定(林業科) 【入賞】 堅道智昭
農業鑑定(造園科) 【入賞】 古畑直人

○北信越大会

意見発表C 【優秀賞】 内山ちひろ

○県大会(臼田高校)

意見発表B 【優秀賞】 山田良輔

意見発表C 【最優秀賞】 内山ちひろ

農業情報処理 【優秀賞】 金子圭介

二〇〇〇年(平成12年)

○全国大会(宮崎県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 伊藤麻矢

○県大会(更科農業高校)

意見発表A 【優秀賞】 古野秀幸

意見発表B 【優秀賞】 伊藤麻矢

意見発表C 【優秀賞】 大目 匠

7、昭和三八年の林業科実習計画表

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	学年	種目
餌木の設置	果箱作成 架設		苗圃寒害予防	地拵・枝打・間 伐木の選定 苗圃寒害予防	霜除 種実採集 精選貯蔵	日除除去 苗木病害予防	除草	除草・除伐 下刈・蔓切	除草・追肥・日 除・苗木 病害予防	おしば作り 挿木・林木鑑定	植樹・播種・床 替	一年	林業生産
	昆虫調査 餌木の設置		庭木林木の雪害 予防	枝打・間伐 庭木の寒害予防	昆虫予防 同上	諸被害木の 手入処理 餌木設置	昆虫調査風害の 予防	除伐・下刈 蔓切	病虫害駆除 予防法	餌木設置 昆虫調査及び飼 育試験	植樹 病虫害除去	二年	林業生産
	庭園模型作り	庭園設計	材木の性情調査	同上	同上 精英樹調査	同上 庭の手入 精英樹調査	材木性情調査	生垣刈込 庭の手入 材木の性情調査	庭木の手入 林木の性情調査	接ぎ木	学校附近林木の 外観的性情調査 庭木の移植	三年	林業生産
同上	防腐剤の注入	同上	同上	木材強弱 試験			同上	林鑑作成	顕微鏡実験			二年	林業加工
	椎茸菌培養	椎茸菌糸培養		木材の蒸溜 椎茸原木採集	バルブ実験 松脂採集	松脂採集	木材化学実験	製炭	製炭	椎茸採集 製炭原木採取	椎茸種埋 椎茸樽木起し	三年	林業加工
	トラバース測量	トラバース測量	トランシット測 量	トランシット測 量	トランシット測 量	コンパス 測量	コンパス 測量	平板測量	平板測量	平板測量	簡易測量	一年	林業課程
		同上	写真測量	平板測量	平板測量 索道実習	スタジア測量 林道設計書調製	スタジア測量 林道測量 土木材料	水準儀測量 林道測量	水準儀測量 林道測量	トラバース測量	トラバース測量	二年	林業課程
			橋梁設計 書調製	橋梁設計				砂防			林道設計 土木材料	三年	林業課程
	同上実習	同上 実習	樹幹析解	伐採木の材積測 定 樹幹析解	同上	同上	林木材積 測量	同上	立木毎木 調査	単木測定		二年	林業課程
				経営案説明書作 成	同上	同上	同上	経営案の編成	森林調査及 調査簿作成	同上	演習林区画 測量	三年	林業課程

8、インテリア科生徒作品展

昭和四年（一九二九年）木工専修科設立以来、生徒作品展は、平成十三年（二〇〇〇）で五三回を数えることとなった。

その内容は、時々の生活環境によって作品も変わってきている。

昭和二〇年代においては、収納家具的なものが多く、三〇年代に入って、洋服ダンス、食器棚、整理ダンス、子供用の家具が出始めた。

昭和三八年（一九六三）木材工芸科から工芸科と科名が変更になり、女子生徒が入学するようになり、内容も少しずつ変わってきた。木工芸品だけでなく、絵画やデザイン作品、ポスターなども展示されるようになり、一段と華やかさを増してきた。

四〇年代に入って作品は洋家具が多くなり、サイドボードや飾棚、ミラーチェストなど室内空間をより有効利用すると共に、装飾的な家具も作られるようになってきた。収納家具専用からゆとりのある生活、くつろぎのある生活へと変化してきたため、製作される家具もそれと共に変わってきた。

昭和五九年（一九八四）作品製作意欲の向上を目指して、作品賞を設けることとなった。以後この賞はインテリア科生徒の大きな励みになり毎年優れた作品が発表された。

平成二年三月三日の信濃毎日新聞には、次のような記事が写真と共に掲載された。「木曾山林高校第四二回インテリア科作品展が同校で開かれた。恒例の即売も行うとあって約二〇〇人が会場を訪れ、生徒たちの力作に見入った。伝統の展示会だが経験を積んだ三年生ともなると、完成度も高く、細かい部分まで丁寧な仕上げ、一年間四〇〇時間余りもかけて製作されたものであり、訪れた人はプロ顔

負けと評価していた。」

平成一〇年代に入り女子生徒も多くなり作品にも変化を生じている。特に情報デザインコースの実習では、デザインコンクールでの入選、椅子を中心とした家具、身の周りの品々の製作へと変化してきている。

インテリア科生徒作品展入賞者

* 三年を対象に行っているので受賞者は全員三年生

昭和五九年度 (一) 内は受賞作品

金賞 田上幸夫 (火鉢)
銀賞 細沢正巳 (食器棚)
銅賞 保科 勝 (サイドボード)
努力賞 鈴木健裕 (茶棚)
村井智睦 (鏡台)

昭和六〇年度

金賞 内木 靖 (両面戸棚)
銀賞 小椋正幸 (茶ダンス)
銅賞 髪田 勉 (サイドボード)
努力賞 田上康行 (食器戸棚)
山浦卓仁 (飾棚)

昭和六一年度

金賞 高寺正浩 (飾棚)
銀賞 古坂浩一 (書棚)
銅賞 下平寿宏 (食器棚)
努力賞 小林 久 (サイドボード)

昭和六二年度
高橋智美（ベッド）

平成三年度

丸田友明（食器棚）

金賞
児野正博（書棚）

銀賞

田代勝男（食器棚）

銀賞
古根 勉（サイドボード）

高谷理恵（デザインポスター）

銅賞
原 光男（食器棚）

銅賞

原今朝男（洋服ダンス）

努力賞
狩戸よしみ（飾棚）

児野由美（デザインポスター）

松坂鉄也（サイドボード）

努力賞

古瀬美樹（サイドボード）

上條好一（サイドボード）

梶田昌孝（リビングボード）

昭和六三年度

平成四年度

金賞
尾崎賢二（サイドボード）

金賞

城田祐輔（サイドボード）

銀賞
奥原卓三（飾棚）

銀賞

丸山健一（茶ダンス）

銅賞
佐々木昭（サイドボード）

銅賞

田下智幸（食器棚）

努力賞
田中恵美子（和ダンス）

努力賞

高谷祐子（洋服ダンス）

中島賢治（茶ダンス）

浅村千春（整理ダンス）

平成元年度

平成五年度

金賞
古田洋一（食器棚）

金賞

大橋康昭（茶ダンス）

銀賞
藤原宏司（食器棚）

銀賞

野口牧子（デザインポスター）

銅賞
和木裕美子（サイドボード）

銅賞

奥谷さやか（サイドボード）

努力賞
可知浩二（食器棚）

小口文登（食器棚）

三浦利津子（整理ダンス）

努力賞

該当者なし

平成二年度

平成六年度

金賞
磯貝洋介（洋服ダンス）

金賞

該当者なし

銀賞
越 雄児（食器棚）

銀賞

関 佐智（ポスター）

銅賞
巾 勝男（食器棚）

銅賞

紙原 靖（サイドボード）

努力賞
新井健司（飾棚）

銅賞

川原文幸（テレビボード）

浦島昭彦（食器棚）

努力賞

藤原卓也（ドロアーチェスト）

平成七年度

金賞

山田 剛(テーブルセット)

銀賞

森下貴俊(ポスター)

手塚 誠(サイドボード)

銅賞

畑中由美(下駄箱)

池井裕司(飾棚)

努力賞

上村憲子(ライディングビュロー)

奨励賞

中島茂夫(デザインポスター)

杉本勇治(テーブル)

平成八年度

金賞

笠原 亮(両面食器棚)

銀賞

小瀬木利香(ポスター)

銅賞

村井佑美果(サイドボード)

新井健太郎(飾棚)

奨励賞

松葉まゆみ(飾棚)

荻村幸江(ポスター)

平成九年度

金賞

大野田武史(下駄箱)

銀賞

松原由嘉(本棚)

銅賞

斉藤暁美(収納いす)

奨励賞

和合美幸(テレビボード)

平成一〇年度

優秀賞

古畑一徳(デザインポスター)

奨励賞

野原一浩(コーナーボード)

努力賞

大槻正敏(ライディングビュロー)

平成十一年度

優秀賞

田中麗子(家具デザイン)

奨励賞

倉本真理子(デザインポスター)

努力賞

原 和司(ローボード)

森下 徹(ベッド)

平成十二年度

優秀賞

古林 晃(食器棚)

奨励賞

太田佐代(デザインポスター)

努力賞

奥原 恵(食器棚)

藤田美里(デザインポスター)

各種デザインコンクール入賞者

平成一〇年度

全国デザインコンクール

福岡県教育委員会長賞

小林早苗(三年)

平成十一年度

全国デザインコンクール

福岡県産業デザイン協会会長賞

松谷美香(三年)

読売新聞社賞

田中麗子(三年)

環境保護ポスター

最優秀賞(長野県)

中西千絵美(三年)

優秀賞(関東甲信越静地区)

田中麗子(三年)

9、昭和三八年の工芸科実習計画表

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	学年	種目
〃	〃	投影図法Ⅱ 家具工作Ⅱ 家具工作Ⅰ	〃	〃	小工芸品	〃	投影図法Ⅰ 文字と図案 彫刻	ひきもの ひきもの	ひきもの ひきもの	平面図法 文字と図案	製図の基礎	一年	製 工 芸 課 程
〃	〃	透視図法 家具工作Ⅱ	(商店・台所)	(子供・事務)	(応接・書斎)	(食事室・寝室)	(家具意匠 居間)	(椅子)	(棚類)	〃	(加工コース) 家具工作Ⅱ (椅子類)	二年	
〃	〃	透視図法	台所家具設計	(子供室家具設計 その他)	(応接家具設計 書斎)	(食事家具設計 寝室家具)	(家具意匠 居間)	(現寸図 椅子・棚)	タンス類設計	椅子・棚設計	(デザインコー ス) 家具工作Ⅱ (小椅子)	三年	
〃	(建築)	透視図法 (室内)	〃	(子供室設計)	(和風客間)	(洋風居間)	(室内意匠 和風居間)	〃	(断面図 矩計図)	(立面図)	(加工) 建築製図 (平面図 断面図)	四年	
〃	(建築)	透視図法 (室内)	(船舶室内)	車輛船舶 (車輛室内)	(子供室・台所 の設計)	(書斎設計 洋風居間)	(室内意匠 和風居間)	〃	(住宅・アパ ルトの設計)	(矩計詳細 展開図)	(デザイン) 建築製図 (平面・立面 断面図)	五年	
〃	〃	〃	木工機械の基本 実習 (丸棒削ミシン 鋸木工旋盤)	〃	製図板	〃	〃	〃	本立	(組手・接手)	基本実習 (工具研磨 使用法)	一年	
〃	〃	〃	〃	〃	小戸棚 卓子	〃	〃	〃	〃	〃	(加工コース) 平机 整理箱	二年	
〃	〃	〃	〃	〃	人形ケイス 壁掛・額縁 ブックエンド	〃	〃	〃	〃	〃	(デザインコー ス) 整理箱	三年	
〃	〃	〃	〃	〃	壁かけ(板金) ペン皿(プラス チック) 人形ケイスガラス	〃	〃	〃	〃	〃	(加工コース) タンス・棚 椅子類	四年	
〃	〃	〃	〃	〃	居間家具及 装飾品	〃	〃	〃	〃	〃	(デザインコー ス) 応接セット及装 飾品	五年	
〃	〃	ラッカー塗装	〃	ラック塗装	〃	染料による着色	〃	顔料による着色	〃	〃	〃	一年	
原価計算	塗料・塗幕試験	〃	〃	合成樹脂塗装	カシユール塗装	エナメル塗装 水性塗料塗装	ペイント塗装	赤外線乾燥	〃	スプレー塗装	漂泊	二年	

10、卒業生の進路傾向と進路先

①卒業生の進路傾向

(1)明治・大正・昭和(戦前)の時代

創立された時の目的からみてもわかるように、地元の林業に関わる期待が大きく、産業技術改革の要望が唱えられていた。木曾谷は日本全国の中にあつて三大美林の一つといわれている天然ヒノキ林は、そのほとんどを官林が占めていた。明治の時代に「富国」の有力な一分野として「森林経営」に着目して山林学校が創立される要因になった。

創立当時から入学者は郡内はもとより県内・県外からも集まつてきており明治時代だけでも、県外から八三名、郡外からは一三八名と多く、卒業生数の半数以上を占めている。ちなみに郡内出身者は一三四名。その進路先はほとんどが各県の大・小林区署(現、森林管理局・署)であるが、県市町村関係へも進む者もいた。

大正時代になると、明治同様に大・小林区署、帝室林野局に多く就職しているが、台湾・朝鮮半島・樺太へも行く者が増えており、製紙会社・木材会社などの企業へ、さらに勉学することで、高等農林専門学校はもとより、第四高等学校・早稲田大学などへも進学する者もいた。

昭和になつてもその傾向は変わらず、民間企業へ進む者も多くなつており、満州鉄道・大林組・王子製紙・十條製紙・など一流の企業へ進んだ。

(2)昭和(戦後)・平成の時代

戦後になると国有林・県庁関係をはじめとした官庁関係への就職は、相変わらず多かつたが、昭和三〇年度から公務員試験制度が始まり、その難関を通らなければならなくなつた。

さらに木材工芸科も二二年度からスタートし、戦後の復興も進み、経済の高度成長に伴い民間企業へ進む者が次第に多くなり、木材販売・合板関係・製紙・パルプ関係・測量関係で関東・中京方面へ行く者が多くなつた。

四二年度より林業科におけるコース制の導入により、更にその傾向が強くなつた。一方木材工芸科(現インテリア科)においても三八年度よりコース制の導入と女子生徒の受け入れなどによりデザイン・インテリア室内装飾の分野へ進むものも多くなつた。また、専門学校を含む進学者も徐々に多くなり各分野(資格取得)で勉強している。

平成になつて林業科では木材関係・製紙・パルプ関係・合板関係はなくなり、一般製造関係・建設土木関係が増えている。一方インテリア科でもインテリア関係・木材・家具関係が減少傾向にあり、一般製造関係が増えている。また進学は年々増加の傾向にあり卒業生の約四割が進学する状況になつている。

11、長野県木曾山林高等学校生徒自治会々則

昭和二十七年四月十一日制定

前 文

我々木曾山林高等学校生徒は、我々自らの手による自治活動を通して我等の理想である自由と平和の学園を建設し、新しい伝統の創造を計り、以て民主社会への貢献を誓う学徒となるよう努力せんことを目的としてここに規約を制定する

第一章 名 称

第一条 本会は、長野県木曾山林高等学校生徒自治会と称する

第二章 会 員

第二条 本会は、本校生徒をもつて会員とする

第三条 本会員は、この規約を忠実に履行する義務を負う

第四条 本会員は、定められた会費を納入しなければならぬ

い

第五条 本会員は、総て選挙権及び、被選挙権をもつ

第三章 役 員

第六条 本会は左の役員を置く

会長 一名 副会長 二名 書記 若干名

監事 若干名 執行委員 若干名

評議員 若干名 校風委員 若干名

第七 条

会長・副会長は選挙により会員中より選ばれ、会長は本会を代表し且つ執行委員会を組織し、会務の一切を処理統轄する。副会長は会長を補佐し、会長不在の時はその職務を代行する

第八 条

書記は会員中より会長の指名により選挙され、書記会を組織して諸会合の記録を司る

第九 条

監事は、各ホームルームより一名宛選出され、監事会を組織して、備品及び会計の監査にあたる

第十 条

評議員は各ホームルーム及びクラブより選出され評議会を構成する

第十一 条

執行委員は会長の指名により選出され執行委員会を構成する

第十二 条

校風委員は、各地区及び各ホームルームより選出され、校風委員会を構成する

第十三 条

役員任期は（毎年十二月一日より翌年の十一月三十一日）一ケ年とし、再選をさまたげない

第十五 条

本会は左の機関をおく
一、生徒総会 二、評議会 三、執行委員会
四、校風委員会

※第五 章 生徒総会

第十六 条 生徒総会は本会の最高決議機関である

第十七 条 議長はその都度会員の中より会長が指名し議事の運営に当る

営に当る

第十八 条

定期総会は、春（四月）秋（十一月）の二回とし、臨時総会は評議会が必要と認めた場合及び、会員の

三分の一以上の要求があつた時会長が之を召集する
 生徒総会は、会員の三分の二以上の出席を以て成立する

第二十条

生徒総会に於ける決議は、出席会員の過半数の賛成を必要とする。賛否同数の場合は議長がそれを決定する

第二十一条

次の議事は総会の承認を得なければならない
 一、予算及決算 二、本会の資産処分 三、会費
 四、規約の改正 五、役員の新辞職に関する事項
 六、役員指名 七、其の他の重要事項

第六章 評議会

第二十二條 評議会は、生徒総会につぐ決議機関であり、本会運営上の諸事項及び、本会に関する総ての提案を審議し、生徒総会に提出し、生徒総会の決議を必要としない諸事項を決定する

第二十三条

評議会は各ホームルーム代表一名、及び各クラブ代表一名によつて構成する

第二十四条

評議会の議長、副議長は、評議員の互選によつて定め、議長は評議会を召集し、評議会を代表して会務の処理に当る。副議長はこれを補佐し、議長不在の時はこれを代行する

第二十五条

評議会は、評議員の三分の二以上の出席をもつて成立し、議決は出席数の三分の二以上の賛成を必要とする

第二十六条

評議会は、公開とし傍聴人に意見を求めることがで

第二十七条

きる

評議会は決議事項を関係方面へ伝達せねばならない

第二十八条

執行委員会は、本会の執行機関で、諸種の企画を立案し、これを評議会に提出する。そして生徒総会及び評議会の決議事項を円滑に執行せしめる

第二十九条

執行委員会の委員長及び、副委員長は本会の会長及び副会長が兼任する

第三十条

執行委員会は左の局を置く
 一、総務局 二、財務局 三、文化局 四、体育局
 五、出版局 六、厚生局

第三十一条

執行委員会の各局には局長一名、局員若干名をおく

第三十二条

執行委員会の委員（局長）は、委員長が指名し、局員は局長が指名する

第八章 校風委員会

第三十三條 校風委員会は、生徒自治活動の刷新会員の生活向上、校風の振興を計るを目的とする

第三十四条

校風委員会は、各地区一名、各ホームルーム代表一名を以て構成する

第三十五条

校風委員会は、委員長及び副委員長各々一名を、互選により選出する。委員長は委員会を統轄し、会務一切を処理し、委員長は召集権を有する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長不在の時はその職務を代行する

第九章 ホームルーム

第三十六条 ホームルームは、本会の構成単位で本会活動に関する

研究討議及び、審議執行を行う基本組織である

第三十七条 各ホームルームは顧問、ルーム長、副ルーム長、書記、会計、保健、その他必要な役員をおき、要望事項を評議会に提出する。但しルーム長は、評議員を兼ねるものとする

第四十五条

によって組織される。但し前項以外の改選がなされる場合は直ちに評議会の指名によって之を組織する選挙管理委員は評議会の指名により各ホームルームより一名選出する。但し立候補を希望するものは、この旨評議会に届出し辞退することができる

第四十六条 選挙管理委員会の委員長は委員の互選により選出し、委員会の会務処理にあたる

第十章 クラブ

第三十八条 クラブはホームルームと共に自治活動の重要な機関であり、会員はいずれかのクラブに所属し活動するものとする。又一人で二つまでは入部することができる

第四十七条

本会の経費は、生徒会費、PTA援助費、その他の収入による。会費は毎月初めに納入するものとする。但し金額については別に定める

第三十九条 クラブは入部した部員をもって構成し部長は部員の互選によって定め、部を統轄して部活動の一切にあたる。但し部長は評議員を兼ねるものとする

第四十九条

会計は定期生徒総会の開催された時並に評議会が要求した場合報告しなければならない。又会員が閲覧を求めた時は提示しなければならない

第四十条 各クラブは関係局に属して部活動の企画とその執行に当る

第五十条

会計は、毎学期一回以上監事の監査を受けなければならない。

第四十一条 各クラブはその活動を円滑ならしめるためクラブの予算をもつ

第十一章 選挙及び選挙管理委員会

第四十二条 総選挙は毎年十一月下旬に行うものとする

第五十一条

評議会及び委員会は次の場合解散しなければならない
一、任期が満了した時、但し新役員の選出が終り事
二、实际的行動がなされるまではひき続いて職務を行う
三、中途の解散にも適要される。

第四十三条 選挙管理委員会は総選挙の実施に当り選挙の計画管理を行う

第四十四条 選挙管理委員会は選挙実施一ヶ月前に評議会の指名

一、総会が不信任案を可決した時

第五十二条

一、評議会が四分の三を以て解散を決議したとき
 一、執行委員会は、執行委員長が職務を離れた時
 役員は、次の場合解任しなければならない
 一、会長、副会長は生徒総会に於て不信任案が可決
 された時及び評議会に於て四分の三以上を以て
 不信任案が可決された時

第五十三条

一、評議員及委員の選出母体が解任を決議したとき
 会長及び副会長が辞職及び解任された時はこの旨評
 議会に届出る。但し解任後も新役員を選出されるま
 では、続けて職務に当る

第五十四条

本会の活動を円滑ならしめるため本校職員を顧問に
 おく。顧問は各会合に出席して助言を与える事がで
 きる

第十四章 顧問

第十五章 附 則

第五十五条

本規約の改正は評議会に於て決議された時及び会員
 の三分の二以上の要求があった時修正案を総会に提
 出し全会員の三分の二以上の賛成を以て成立する

第五十六条

本規約は公布された日より直ちに効力を発する

第五十七条

各機関の細則は別に定める

※第四章及び第十四条が原文（「学校要覧」昭27）にないのでそのままとした。

12、戦後の本校相撲部の活躍と記録

長野県高等学校総合体育大会 相撲競技

〔団体の部〕

〔個人の部〕

昭和二十二年

優勝

山田幸雄

二十三年

優勝

山田幸雄

三十五年

優勝

山田幸雄

三十六年

優勝

山田幸雄

三十七年

優勝

桑原昭一

三十八年

優勝

桑原昭一

五〇年

優勝

村松寿一

五二年

優勝

村松寿一

五三年

優勝

小幡敏幸

五六年

二位

井領 稔

五八年

優勝

森 正樹

六〇年

二位

木戸口 光

六一年

優勝

森 博道

六二年

優勝

田代勝男

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

杉本一彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

長野県高等学校相撲新人大会

〔団体の部〕

昭和五三年

二位

五四年

優勝

五五年

優勝

〔個人の部〕

二位 平林 正

優勝 井領 稔

優勝 井領 稔

平成元年 優勝

優勝 杉本一彦

二位 赤羽清吉

五六年 二位

三位 玉井慎太郎

三位 佐幸寛之

五七年 優勝

二位 山下紀明

二年 優勝

優勝 尾羽林英樹

五八年 優勝

三位 野田利彦

二位 赤羽清吉

優勝 木戸口 光

三位 田島大助

三位 細田清武

三年 優勝

優勝 田島大助

五九年 優勝

優勝 森 博道

二位 滝沢 誠

三位 和木 崇

四年 優勝

三位 尾羽林英樹

六〇年 二位

二位 田代勝男

四年 優勝

優勝 滝沢 誠

六一年 優勝

優勝 滝沢良彦

二位 植原 健

六二年 優勝

優勝 滝沢良彦

三位 宮下貴宏

二位 杉本一彦

五年 優勝

優勝 宮下貴宏

六三年 優勝

三位 吉田 薫

二位 伊藤裕樹

優勝 杉本一彦

六年 三位

三位 伊藤裕樹

平成元年 優勝

三位 佐幸寛之

七年 優勝

優勝 滝沢雅志

優勝 田島大助

八年 二位

二位 三沢剛之

二位 赤羽清吉

一〇年 優勝

優勝 福海 勇

三位 尾羽林英樹

十一年 優勝

優勝 起 元樹

二年 優勝

優勝 滝沢 誠

二位 田島大助

二位 田島大助

三位 赤羽清吉

三位 赤羽清吉

優勝 植原 健

優勝 植原 健

二位 滝沢 誠

二位 滝沢 誠

優勝 宮下貴宏

優勝 宮下貴宏

二位 古畑伸一

二位 古畑伸一

三位 伊藤裕樹

三位 伊藤裕樹

五年 二位 優勝 伊藤裕樹
 六年 二位 三位 山本剛太
 七年 優勝 優勝 滝沢雅志
 九年 優勝 優勝 大屋亮太
 二位 野口陽一郎
 三位 鈴木希芳
 三位 大屋亮太
 十一年 優勝 優勝 起 元樹
 十二年

個人 優勝 田島大助（89回）
 十一年・第五四回国民体育大会 成年Bの部
 団体 四位入賞

（田島大助89回・尾羽林英樹89回・滝沢誠90回）

各種全国大会の記録

昭和三六年・全国高等学校相撲選手権大会

個人 ベスト8進出 山田幸雄

・全国高等学校相撲金沢大会

個人 ベスト8進出 山田幸雄

平成 元年・全国高等学校相撲新人大会

団体 ベスト8進出

二年・全国高等学校相撲選手権大会

団体 ベスト16進出

三年・全国高等学校相撲選手権大会

団体 ベスト16進出

四年・北信越相撲選手権大会 少年の部

個人 三位 滝沢 誠

八年・第五一回国民体育大会 成年Bの部

個人 優勝 田島大助（89回）

九年・第五二回国民体育大会 成年Bの部

13、応援歌・実習歌

① 応援歌

本校の印刷物に掲載した応援歌の歌詞に誤りがあったため、四一回卒業生を中心に歌詞の誤りを訂正する再現編集が行われた。その方々のご労苦に対して、芳名をあげ感謝の意を表したい。

監修 名小路淳郎（40回）・金森久治（同）
 担当 林 信一（41回）・桐野昭二（同）
 協力 三浦清一郎（43回）・山田邦芳（同）

特に、林・桐野は応援歌の歌詞の訂正だけでなく、校内の記録にない応援歌を復元した。さらに名小路・林はメロディーの復元をはかり、その結果を、林は楽譜にうつすと共に演奏してテープに録音した。

こうしてできあがった応援歌の歌詞・楽譜・録音テープを、平成九年四月、本校に贈っていただいた。その歌詞及び楽譜を、次に記す。

山 紫 に

BK=1 $\text{♩} = 76$

BK=2

BK=3

BK=4 1.2. 3. $\text{♩} = 60$

やまむらさ-きに みずきよき きそじのはるもさりゆけば
 ふたたびめ-ぐるせいせん に けんこんともにとよむかな

長野県木曾山林高校 応援歌

山紫に

- 一、山紫に水清き
 木曾路の春も 去りゆけば
 再びめぐる聖戦に
 乾坤ともに どよむかな
- 二、お我が敵よ いざ来たれ
 大志ひとたび決して
 戦の庭の花吹雪
 散らさで敵を帰すべき
- 三、金箭いまや 弓はなれ
 戦雲散じて星光る
 桂冠目指す三百の
 健児の意気を君見すや

駒の高嶺を

BK=1 $\text{♩} = 120$

BK=2

BK=3 まのたかねをくもいにのぞみ - むらさきに

BK=4 おえるみ たけのふもとにおおしくそばだつわれ

BK=5 らがほこう - みよみ - よさん りんけんじ - のつどい

BK=6 $\text{♩} = 92$

駒の高嶺を

一、駒の高嶺を
雲井に望み
紫匂える

御岳の麓に
雄々しくそばだつ
我等が母校

見よ見よ
山林健児の集い

二、愛の魂
正義の心
朝に夕べに
鍛え練りつ
邦家に捧ぐる
我等が母校
見よ見よ
山林健児の意気を

御岳の

BK=1

BK=2 $\text{♩} = 120$

BK=3

BK=4 おんたけの やまがさかさに みゆるとも んりんけんじは
きそがわの みずがさかさに

まけはせぬ そりや まけはせぬ

御岳の

一、御岳の
山が逆さに
見ゆるとも
山林健児は
負けはせぬ

そりや
負けはせぬ

二、木曾川の
水が逆さに
流るとも
山林健児は
負けはせぬ

そりや
負けはせぬ

勝利

勝利

若い我等の血は躍る
 さあさ行こうよ栄冠めざし
 燃える心は我等の意気だ
 勝利勝利山林の健児

一、勝利
 二、(繰り返し返す)

BK=1 $\text{♩} = 120$ $\text{♩} = 120$
 しよ-り しよ-り
 BK=2
 さりんのけ-んじ もえるころはわれらのいきださ
 BK=3
 -さいこおよえい かんめざし わかいわれらのちはおどる
 BK=4 $\text{♩} = 76$
 D.S.

朝だ夜明けた

BK=1 $\text{♩} = 130$
 BK=2 $\text{♩} = 130$
 あさだよあけ-だ わこうど-のいきだ
 BK=3
 むねを どんとうら わきたつ-らし-お
 BK=4 1.
 (だれだれ) がん-ば-れしょうりを-たのむぞ
 BK=5 $\text{♩} = 144$
 BK=6
 BK=7
 BK=8 2.
 BK=9 $\text{♩} = 92$

朝だ夜明けた

一、朝だ夜明けた 若人の意気だ
 胸をドンと打ちや 沸きたつ血潮
 (だれだれ*) 頑張れ
 勝利を頼むぞ

二、(繰り返し返す)

* () 内は選手名

いざ来たれ

BK=1 $\text{♩} = 120$

BK=2 $\text{♩} = 120$

BK=3

BK=4 $\text{♩} = 92$

いざ来たれ
わがこうてきよ やぶらんか やぶられんかあにやすく
かれらがあしの けがすまに けがさしめんや

いざ来たれ

一、いざ来たれ 我が好敵よ
破らんか 破られんか
あに易く 彼等が足の
汚すまに 汚さしめんや

二、いでや いで 打ち倒さんや
か弱き 敵の陣を
強き我等が 腕をもちて
立ち入らん 勝利の城に

三、昇る日の 光を浴びて
戴かん 勝利の冠
いでや いで いで男みて
握らん 覇権の剣

凱歌

BK=1 $\text{♩} = 105$

BK=2 $\text{♩} = 105$

BK=3

BK=4

BK=5 $\text{♩} = 76$

BK=6

おわがともよみた
けにひがしすむ ビナスはひかるこまの
みねにへいわなるゆうべがいかをあげ
よいわえうたえわがともよミネ口はひかるみそら
に

凱歌

おお 我が友よ 御岳に日が沈む
ヴィナスは光る 駒の峰に
平和なる夕べ 凱歌をあげよ
祝え 歌え 我が友よ
ミネ口は光る みに空に

霊峰そびゆる

BK=1 $\text{♩} = 92$

BK=2 $\text{♩} = 92$

BK=3 $\text{♩} = 92$

BK=4 $\text{♩} = 92$ D.C.

BK=5 $\text{♩} = 76$

れいほうそびゆる
 きそだにの おんたけおろしに なるまつの おいのごほ
 くのしげると き きほうにみつる わこうどよ
 あげよかちどきこころより

霊峰そびゆる

一、
 霊峰そびゆる 木曾谷の
 御岳風に 鳴る松の
 老いの五木の 繁る時
 希望に満つる 若人よ
 あげよ勝鬨 心より

二、
 勝つて 桂の冠に
 双手を打ちて 勇みつつ
 あげよ勝鬨 心より
 希望に満つる 若人よ
 あげよ勝鬨 血潮より

色の黒い奴

BK=1 $\text{♩} = 120$ $\text{♩} = 105$

BK=2

BK=3

BK=4 $\text{♩} = 105$ D.C.

いろのくろいや つあさんり
 んけんじうんとがんぼりこんでしよいな
 げくらせ え やらや えんやらやれこの
 ささのせーふんづぶせ

色の黒い奴

一、
 色の黒い奴あ
 山林健児
 うんと
 頑張りこんで
 背負い投げ
 食ら(わ)せ
 エンヤラヤ
 エンヤラヤ
 ヤレコノサ
 サノセー
 踏ん潰せ!

二、
 (繰り返す)

げんげつ 弦月 高き駒の嶺 みね

BK=1 ♩ = 135



BK=2



げん げつ たかさ こまのみ ね

BK=3



そらすみ わたる あさほ-ら け

BK=4



せいぎのながれはきそがわの

BK=5



ながれと ともに つきぬらん *D.C.D.S.*

BK=6 ♩ = 92



弦月高き駒の嶺

- 一、 弦月高き駒の嶺
 空澄み渡る 朝ほらけ
 正義の流れは 木曾川の
 流れとともに 尽きぬらん
- 二、 健児の胸に 燃ゆる火の
 明けてぞ映ゆる 朝ほらけ
 雲の響きに 目覚めけん
 御岳の空の 未遠く
- 三、 歴史は長し 四十年
 籠もれる理想 誰か知る
 今世に纏う 荊棘を
 薙ぎて開くは 誰人ぞ

洋^{よう}たり我^{われ}らが望^{のぞ}みの行^いく手

♩ = 120

BK=1

よう たり われ

BK=2

ら が のぞ み - の ゆ く て ひやく れん ばん たん たく

BK=3

らく の い き な - り を し す め て わ れ ら は

BK=4

ま ち ひ に く の な げ き を こ こ す て ど こ

BK=5

る き た え し て つ わ ん た か な る ち - し

BK=6

じゅうおつ しめ さん われ ら が い さ を い ざ や ふ る

BK=7

え さん りん けん けん けん じ D.C.

BK=8

♩ = 92

洋^{よう}たり我^{われ}等^らが
望^{のぞ}みの行^いく手

- 一、洋^{よう}たり 我^{われ}等^らが望^{のぞ}みの行^いく手
百^{ひやく}練^{れん}万^{まん}鍛^{だん} *卓^{たく}拳^{けん}の意^い気^き
鳴^なりを鎮^{しず}めて 我^{われ}等^らは待^{まち}ちし
脾^ひ肉^{にく}の嘆^{なげ}きを ここ捨^すてどころ
鍛^{きた}えし鉄^{てつ}腕^{わん} 高^{たか}鳴^なる血^ち潮^{しほ}
縦^{じゅう}横^{おう}示^{しめ}さん 我^{われ}等^らが意^い気^きを
いざや奮^{ふる}え 山^{さん}林^{りん}健^{けん}児^じ 健^{けん}児^じ
- 二、(練^{れん}り返^{かえ}し)
- * 卓^{たく}拳^{けん} 他^たより抜^ぬき出^でて優^{すぐ}れてい
るこ^{こと}。卓^{たく}拳^{けん}。

山の中なる人交じり

BK=1 $\text{♩} = 120$

BK=2

BK=3 $\text{♩} = 105$

BK=4 $\text{♩} = 120$ $\text{♩} = 92$

やまのなかなる
ひとまじり ひかりなりけり おんたけの さんりんこーうの
ほまれなる われらがけんじの いきしる
や

山の中なる
人交じり

- 一、山の中なる 人交じり
光なりけり 御岳の
山林校の誉れなる
我等が健児の 意気知るや
- 二、寄り集れる フレンドは
西中国に九州路
東は 東海北陸に
香りを広く匂わせて
- 三、さざ波寄せる 汗の玉
深山の奥の 巖にも
凝り固まれる 団結の
巖も挫かん 力あり

恨みを吞んで

BK=1 $\text{♩} = 120$

BK=2

BK=3 $\text{♩} = 92$

うらみをのんでちにひそむ
このだんちょうの すぐるひをいまかたずんば いつのひか
いかではけんをにぎるべき

恨みを吞んで

- 一、恨みを吞んで 地に潜む
この断腸の 過ぐる日を
今勝たずんば 何時の日か
如何で覇権を 握るべき
- 二、ああ陰惨の 過ぐる日を
男子の涙 徒ならば
友よ自由を 如何にせん
榮えある歴史を 如何にせん

奮ふるい起こせ若き力

BK=1 $\text{♩} = 120$:8va.

BK=2 ふる

BK=3 :8va.

BK=4 :8va.

BK=5

BK=6 D.C.

BK=7 $\text{♩} = 92$

奮ふるい起こせ若き力

一、奮ふるい起こせ 若わかき力ちから 燃もゆる血ち潮しほ
 ただ待ため 汝なが 信しん念ねんを 力ちからを意い気きを
 そは 黎れい明めいの湧わき出でる泉いずみ

おお 大だい聖せい恩おんの旗はたの 下した
 いま 敢かん然ぜんと雄お叫たけぶ我われ等ら

二、躍おどり進すすめ 月つきの晨あした 星ほしの夕ゆうべ
 ただ待ため 汝なが 熱ねつ情じやうを 鍛た練れんを 腕うでを
 そは 瑞ずい光こうの溢あふるる天てん地ち

おお 山さん林りんの空そらの 下した
 いま 敢かん然ぜんと闘た闘たうう我われ等ら

②実習歌

実習歌

BK-1
あさからばんまで

BK-2
てくてくと はよりほかにも たぬみの なたや-のこぎり

BK-3
かまやくわもぐらのまねやら けらのま

BK-4
ね -

実習歌は、「実習の歌」（高木利男・30回）、実習小唄（浦田義次・34回）とも呼ばれた。また歌詞も時代により少し変化がある。時には実習担当の先生のニックネームなどをおりませながら歌ったこともある（竹村幸太郎・45回）という。

浦田は実習歌を録音してそのテープをご寄贈いただいた。また前述の林信一は、実習歌の楽譜・演奏テープを応援歌と共に本校にお

寄せいただいた。さらに高木昭男（45回）にもお力添えをいただいた。合せて感謝の意を表したい。

実習歌

朝から晩までテクテクと 箸より外に持たぬ身の
 鉋や鋸 鎌や鋏 土竜の真似やらけらの真似
 これも前世の因果かや 日はザリザリと照りつける
 汗はダラダラ流るゝを 泥手に拭けば折角の
 御顔も台なしたまらなし 拳固で拭うかどうか
 まじめになれば面倒だ 逆に植えても大丈夫
 巾の広いが特用だ おやおや腰が痛いわい
 按摩の三日もよぶべえか まだ十時とは情ない
 おいらの時計は腹時計 まゝよ内緒でやつつけろ
 おやおやあ例の梅干か しかも御米は白米だ
 トランシットを据付けりや 疎動や微動でやかましい
 夜もロクロク眠られず 学理もヘチマもあるものか
 トランシットが動きだす 村の娘が通るのか
 腰弁当をぶら下げて 今日また例の草刈か
 これで到底やりきれぬ 実習と言うやつあつらいやつ
 雨の十日も降ればよい 雨の十日も降ればよい

実習の歌（作者不詳） 昭和八年卒業 高木利男（30回）のころの実習歌

- 一、朝から晩まででてくくと
箸より外に持たぬ身の
鉦なだのこぎりや鋸のこぎり 鎌くわや鋤くわ
土龍もぐらの真似まねやら螻蛄けらの真似
- 二、これも前世の因果かや
日はぢりぢりと照りつける
汗はだらだら流れるを
泥手で拭えばせつかくの
- 三、お顔も台無したまらなし
拳固こぶで拭おかどうしよか
真面目まじめになれば面倒だ
さかさに植えても大丈夫
- 四、トランシットを据え付けりや
粗動あらどうや微動みどうでやかましい
夜もろくろく眠られず
学理もへちまもあるものか
- 五、粋なボールの美しさ
機械を据えて真面目顔
まじめになつて何をみる
望遠鏡テレスコップが動きだす
- 六、おいらの時計は腹時計
まんまを内緒でやつつけろ
お菜なずは例の梅干しか
しかもお米は白米だ
* 白米 外来はくろい・麦飯・半搗米
- 七、巾の広いが徳用だ
おやおや腰が痛いわい
実習というやつ辛いやつ
雨の十日も降ればよい



実習を終わって帰校する生徒たち（昭和17年）

14、図書館教育について

前学校司書 三澤五月
現学校司書 竹腰史佳

一、本校の図書費

本校図書館が一九五四年（昭和二九）に開設された当初は、自校努力とも言うべきPTA会費でまかっていたが、一九七八年に県立高校の図書購入費が公費化されてからは、毎年ほぼ安定した額が配当されるようになった。

一九六五年の学校図書館協会の調査によると、高校図書館の年間図書購入費の平均は五六六、〇〇〇円である。しかし、同じ年の本校の購入総額は二〇七、六四〇円であり、これは中信地区十六校平均の五四四、八五五円を大幅に下回っている。普通科高校と違い、専門課程のために必要な専門書を多く収集していた本校図書館としては、一般書籍より若干割高であったと思われる専門書をこの予算額で収集していくというのはかなりの苦勞であったのではないだろうか。

一九七八年に図書費が全額公費化されてからは、一九七八年の一八〇万円を超える額を最後に、年々減額される一方である。書籍の価格は物価に応じて上昇しており、一年間に購入可能な書籍点数も減る一方である。

さらに、クラス数の関係からであろうか、近年は県平均より若干少ない額が配当されている。

特殊な学科を持つ高校としては、一般書籍より割高な専門書が自

由に購入できるだけの予算配当を望んでいる。

二、貸出冊数の変化

① 少ない貸出冊数

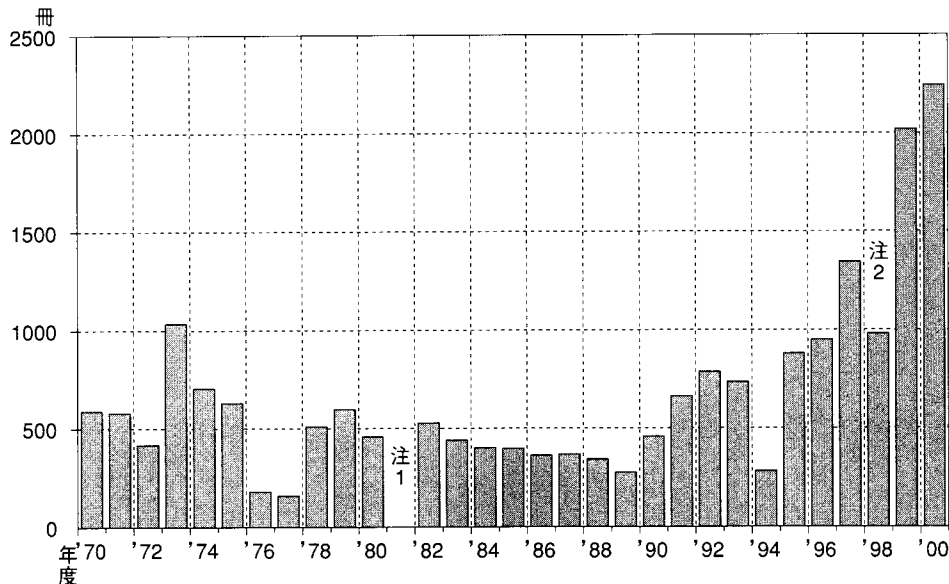
一九六六年に中信高校図書館協会が出した『中信地区における高校図書館の現状と問題点』によると、一九六五年の中信十六校の平均年間貸出冊数は、生徒一人あたり三・六冊である。この年の山林高校は一・八冊であり、利用の低さが認められる。高校生の読書量はどちらかというとな女子の方が多いため、男子生徒が多い山林では他の高校より少なめであったとも考えられるが……。

② 増加する貸出冊数

近年においては高校生の本離れ図書館離れが問題視されているが、本校においては図書の利用が増加の傾向にある。それを貸出冊数で見ると一九九六年一人平均二・九冊だった（長野県高校図書館の平均貸出冊数は四・三冊）年間貸出冊数が、一九九八年には四冊に増加してきている。

さらに一九九九年には四・九冊、二〇〇〇年には、五・七冊となり、全県平均を越える増加ぶりである。

過去30年間の本校図書館における年間貸出冊数の変化



注1 81年記録なし
注2 98年台風被害のため四、九月の記録

年度	主な活動内容	備考
一九七三	校内読書週間 (6/11~23) 校内読書会 (6/23) テキスト『友情』武者小路実篤 • 今まで年二回発行していた館報を毎月一回にし、そのうち二回を印刷所へ • 館内に花を飾る。	「こぼく」第一〇号
一九七二	一年生の利用者が徐々に増えてきている。	「こぼく」第七号
一九七一	校内読書週間 (6/14~19) 校内読書会 (6/18) テーマ「友達・友情」 *読書はしてなくても自由に討論に参加。前日に「全校討論会」があったためか低調。	「こぼく」第四号
?	校内読書週間 (6/14~18) 校内読書会「野菊の墓」参加者四名 (6/19)	「こぼく」第三号?
一九六四	校内読書会 西筑高校読書会	「燈火の友」
一九六三	木曾四校読書会	「燈火の友」

図書委員会では、『こぼく』という新聞を年に一回発行している。一九九九年で第四〇号を迎えるこの委員会紙から、図書委員会の活動を見てみたい。

三、図書委員会紙に見る委員会活動

年度	主な活動内容	備考
一九七三	・長期延滞者に貸出禁止措置(生徒・職員) 古本処分市	
一九七四	第一回校内読書会	「ごぼく」第十二号
一九七五	第二回校内読書会 テキスト『友情』武者小路実篤 『走れメロス』太宰治 *委員以外の参加がなかった。 校内読書感想文コンクール	「ごぼく」第十四号
一九七六	校内読書感想文コンクール 郷土の拓本作り(文化祭発表)	第二部一位の作品あり 二位の作品あり
一九七七		「ごぼく」第十八号
一九七八		「ごぼく」第十九号
一九七九	文化祭での東高との討論会	「ごぼく」第二〇号
一九八〇		「ごぼく」第二一号
一九八一	(司書・平田暢子さん、司書補の講習のため約五〇日間お休み)	「ごぼく」第二二号
一九八二	ひのき祭発表 取材(藤村記念館)	「ごぼく」第二三号
一九八三	木曾三校図書委員交流会 文化祭発表「島崎藤村と高瀬家」 第一回店頭購入へ(鶴林堂)	「ごぼく」第二四号
一九八四	ひのき祭発表 取材(小諸・懐古園)	「ごぼく」第二五号
一九八五	校内読書会 テキスト 「古都」「トロッコ」「高瀬舟」など 文化祭発表・木曾三校図書委員交流会	「ごぼく」第二六号

一九八六	校内読書会 テキスト「破戒」「家」「黒い雨」 絵本づくり(希望者のみ) 文化祭発表「島崎藤村」の童話 店頭購入・百人一首大会	「ごぼく」第二七号
一九八七	木曾三校交流会 文化祭発表・校内読書会	「ごぼく」第二八号
一九八八	放送読書会(年内二回) 文化講座「ケニアの旅」 講師:宮下先生 文化祭発表「藤村いろは歌留多」 木曾三校交流会・店頭購入、その他	「ごぼく」第二九号
一九八九	放送読書会(年内二回) ひのき祭発表「藤村の童話を絵本や紙芝居に」 木曾三校交流会・図書館オリエンテーション	「ごぼく」第三〇号
一九九〇	放送読書会(年内二回) ひのき祭発表「千曲川のスケッチ」を絵に 図書館オリエンテーション 木曾三校交流会・店頭購入	「ごぼく」第三一号
一九九一	「ごぼく」取材(臨川寺) しおりイラストコンテスト 放送読書会(年内二回) 図書館オリエンテーション・木曾三校交流会 店頭購入・ひのき祭発表 図書委員機関誌『図書館News Paper』発行	「ごぼく」第三二号
一九九二	ひのき祭発表「パネルシアター」 放送読書会(年内二回)	「ごぼく」第三三号

年度	主な活動内容	備考
一九九二	図書館オリエンテーリング 店頭購入・ひのき祭発表	
一九九三	ひのき祭発表「パネルシアター」 放送読書会（年内二回） 木曾三校交流会・店頭購入 しおりイラストコンテスト 校外発表会 老人ホーム木曾寮 「ごぼく」取材（飲食店）	「ごぼく」第三四号
一九九四	木曾三校交流会 ひのき祭発表「紙芝居」 放送読書会（年内二回）	「ごぼく」第三五号
一九九五	放送読書会（年内二回） ひのき祭発表「心理テスト・ペーパークラフト」	「ごぼく」第三六号
一九九六	放送読書会（年内二回） しおりイラストコンテスト ひのき祭発表「シルエットアート」 木曾三校交流会・ビデオ鑑賞会	「ごぼく」第三七号
一九九七	放送読書会（年内二回） ひのき祭発表「手作りハガキ・パネルシアター」 ビデオ上映会・木曾三校交流会 しおりイラストコンテスト	「ごぼく」第三八号
一九九八	放送読書会（年内二回） ひのき祭発表「巨大飛び出す絵本づくり・手作りしおり」 木曾三校交流会	「ごぼく」第三九号

まとめ

活動の中心は、主に文化祭における展示発表、校内読書会、「ごぼく」発行などを継続して行ってきた。中でも文化祭展示は毎年力を入れて行っており、また読書会は放送読書会という県下でも珍しい委員会活動を行っている。

五〇年近くにわたる山林高校図書館の変遷を、おおざっぱではあるが追ってみた。貸出冊数の増加も含め、これからの図書館の変化が楽しみである。

参考資料

『一九五四年度本校図書館概要』

木曾山林高等学校図書館

『中信地区における高校図書館の現状と問題点』

中信高等学校図書館協議会

『長野県高校図書館白書一九九八年版』

長野県高等学校教職員組合司書部

『ごぼく』

その他

木曾山林高等学校図書委員会

*本校図書館の設立経過は、第五章に要約・引用させていただいた。また一部データなど紙数の都合で割愛させていただいたものがある。

図書委員会の鳥崎藤村研究の活動（第七章）も併せて参照いただきたい。

15、本校生徒の体格について

元養護教諭 樋口和香子

②体重 ほぼ同じか、上回る場合と下回る場合がある。
 ③胸囲 戦前は平均より上回っている。特に昭和九年の八五・〇

本校は男女共学であるが、女子は途中からでサンプル数も少なく、有効なデータになりにくいので、ここでは男子について、身長・体重・胸囲・座高について示した。

を少し下回る。
 cmは、前年からの伸び率、また絶対値においても抜き添ったものである。本校の実験・実習の成果が体格面にもあらわれたものであるう。なお最近は、法改正により測定して

①身長 本校生徒の傾向は、十五歳（一年生）県平均より少し大

④座高 戦前は測定せず。

きいくらいであるが、十七歳（三年生）になると、県平均

※原稿の一部を、紙面の都合により割愛させていただいた。

調査年	年齢	項目	木曾山林平均	県平均
昭和9年 (1934)	16歳	身長	157.4cm	156.1cm
		体重	49.6kg	46.6kg
		胸囲	80.2cm	77.9cm
	17歳	身長	160.5	158.9
		体重	50.6	50.5
		胸囲	81.9	79.3
	18歳	身長	161.7	160.5
		体重	54.3	52.8
		胸囲	85.0	81.2
昭和25年 (1950)	15歳	身長	データが残っていない	155.2
		体重		46.0
		胸囲		77.7
		座高		83.6
	16歳	身長		158.7
		体重		49.9
		胸囲		80.2
		座高		85.8
	17歳	身長		161.2
		体重		52.8
		胸囲		82.2
		座高		87.4
昭和53年 (1978)	15歳	身長	165.6	166.6
		体重	55.4	55.7
		胸囲	81.8	82.2
		座高	89.9	88.8
	16歳	身長	167.9	168.6
		体重	59.3	58.6
		胸囲	84.5	84.3
		座高	91.4	90.1
	17歳	身長	169.0	169.9
		体重	60.2	60.0
		胸囲	84.7	85.6
		座高	91.9	90.8
平成10年 (1998)	15歳	身長	169.2	168.2
		体重	57.2	59.0
		胸囲		
		座高	90.3	89.8
	16歳	身長	169.5	169.9
		体重	61.4	61.1
		胸囲		
		座高	91.1	90.9
	17歳	身長	169.7	170.6
		体重	63.6	62.4
		胸囲		
		座高	91.2	91.3

昭 和 48 年 度	生徒会長	中田 慎一	副財務局長	西尾 雅男	評議員長	越坂 武	副生徒会長	小桂 成人
副	〃	奥田 勉	校風局長	城所 康夫	副	〃	〃	近藤 千秋
副	〃	小松 研二	文化局長	西 一 美	監査委員長	清水 光夫	書記局長	村地 信治
書記局長	川上 恵二	副	〃	武居 勝	〃	上原 満	財務局長	鈴木 悟
副	〃	田中 哲夫	体育局長	山本 富雄	昭 和 51 年 度	〃	〃	奥原 福光
財務局長	野口 英明	副	〃	倉本 佐千雄	生徒会長	古田 一昭	校風局長	小桂 成人
副	〃	矢口 一紀	評議員長	新井 広司	〃	〃	〃	小林 功
校風局長	小松 研二	副	〃	小坂 正典	書記局長	田口 輝信	文化局長	前沢 昇
副	〃	木村 健一郎	監査委員長	伝村 充善	〃	〃	〃	小坂 清人
文化局長	岩原 義宏	副	〃	古谷 正	財務局長	上田 智昭	体育局長	垂見 茂樹
副	〃	久保田 功吉	昭 和 50 年 度	田口 和久	校風局長	沼 真司	副	勝野 忠臣
体育局長	亀谷 喜一	副	〃	熊谷 幸浩	〃	〃	〃	小幡 敏幸
副	〃	中沢 輝彦	生徒会長	大半场 弘	文化局長	酒井 善繁	評議員長	和泉 英明
評議員長	勝原 直喜	副	〃	伊達 務	〃	長淵 文成	監査委員長	古畑 耕一
副	〃	大久保 昌明	書記局長	酒井 祐子	体育局長	藤原 幸登	〃	中崎 史生
監査委員長	杉村 和善	副	〃	田原 明	副	〃	昭 和 53 年 度	大原 賢
副	〃	唐沢 清七	財務局長	梶沢 弘道	評議員長	西村 秀俊	副	中崎 史生
昭 和 49 年 度	生徒会長	丸山 順一	校風局長	宮沢 稔	副	〃	〃	小原 一夫
副	〃	須賀 幸弘	文化局長	島崎 勉	監査委員長	桜井 満	副	上原 修
副	〃	城所 康夫	体育局長	井上 浩之	〃	〃	〃	奥原 孝
書記局長	中村 泰久	副	〃	永瀬 健弘	昭 和 52 年 度	〃	財務局長	奥村 千治
副	〃	岩原 藤子	昭 和 52 年 度	昭 和 52 年 度	生徒会長	下野 一隆	副	稲村 昌弘
財務局長	川戸口 千秋	副	〃	五月日 実	副	〃	校風局長	中崎 史生

副 〃	評議員長	副 〃	体育局長	副 〃	文化局長	副 〃	校風局長	副 〃	財務局長	副 〃	書記局長	副 〃	副 〃	副 〃	生徒会長	昭和54年度	副 〃	監査委員長	副 〃	評議員長	副 〃	体育局長	副 〃	文化局長	副校風局長	文化局長	副 〃	鈴木悟	大原享
黒石秀夫	志摩清彦	谷口慶太	花村健治	小松守	安井一幸	渡辺修	坂本信男	山口昇	古田武則	越原道廣	三浦清人	桃澤則夫	坂本信男	小原一夫			松岡浩	奥原福光	伊藤浩人	古本均	大橋正渡	小林秀臣	安井一幸	鈴木悟	大原享				
副 〃	副 〃	生徒会長	昭和56年度	副 〃	監査委員長	副 〃	評議員長	副 〃	体育局長	副 〃	文化局長	副 〃	校風局長	副 〃	財務局長	副 〃	副 〃	書記局長	副 〃	副 〃	生徒会長	昭和55年度	副 〃	監査委員長	副校風局長	文化局長	副 〃	松井敏彦	
熊谷和広	三浦武晴	小沢敏夫		山口昇	児野光九仁	青木昭好	森孝之	小佐波誠	越立弘明	小沢敏夫	澤渡晃	黒石秀夫	内山晃	松島うた子	須甲政美	山田俊一	越取隆	下野隆則	内山晃	桃澤則夫			児野光九仁	松井敏彦					
文化局長	副 〃	校風局長	副 〃	財務局長	副 〃	書記局長	副 〃	副 〃	生徒会長	昭和57年度	副 〃	監査委員長	副 〃	評議員長	副 〃	体育局長	副 〃	文化局長	副 〃	校風局長	副 〃	財務局長	副 〃	書記局長	副校風局長	文化局長	副 〃	野口恭一	
大橋輝彦	中村栄一	清野豊	小川正剛	下島廣昭	青木喜代孝	山本春幸	杉崎幸雄	清野豊	熊谷和広		畑中義一	山田俊一	清野豊	倉本栄	太目辰也	開藤直樹	福島裕三	志水敏雄	中島政浩	三浦武晴	小林美代子	彦瀬卓也	尾崎良孝	野口恭一					
副 〃	監査委員長	副 〃	評議院長	副 〃	体育局長	副 〃	文化局長	副 〃	校風局長	副 〃	財務局長	副 〃	書記局長	副 〃	副 〃	生徒会長	昭和58年度	副 〃	監査委員長	副 〃	評議員長	副 〃	副 〃	副校風局長	文化局長	副 〃	副 〃	原智司	
松山仁	杉崎幸雄	武居裕道	村井勇睦	小林克彦	松尾一穂	小佐波洋	志水章彦	樽沢裕二	都築一明	松尾政芳	奥原英	原治彦	今井正	山本通明	都築一明	和田泰司		都築一明	中谷誠	村井勇睦	上田嘉幸	古谷治久	中宿恵司	原智司					

昭 和 59 年 度	生 徒 会 長	副 々	副 々	書 記 局 長	副 々	財 務 局 長	副 々	校 風 局 長	副 々	文 化 局 長	副 々	体 育 局 長	副 々	評 議 員 長	副 々	監 查 委 員 長	副 々	昭 和 60 年 度	生 徒 会 長	副 々	副 々	校 風 局 長	副 々	文 化 局 長	副 々	体 育 局 長	副 々	評 議 員 長	副 々	監 查 委 員 長	副 々	昭 和 61 年 度	副 財 務 局 長	校 風 局 長	副 々	文 化 局 長	副 々	体 育 局 長	副 々	昭 和 62 年 度	副 々	監 查 委 員 長	副 々	評 議 員 長	副 々	昭 和 63 年 度	生 徒 会 長	副 々	監 查 委 員 長	副 々	評 議 員 長	副 々	体 育 局 長	副 々	財 務 局 長	副 々	校 風 局 長	副 々	文 化 局 長	副 々	体 育 局 長	副 々	評 議 員 長	副 々	監 查 委 員 長	副 々	平 成 1 年 度	生 徒 会 長	副 々	副 々	書 記 局 長	副 々	財 務 局 長	副 々	校 風 局 長	副 々	小 林 雄 一	河 口 晃	高 山 曉 美	高 谷 由 美	田 中 由 美	小 林 雄 一	末 松 厚 志	杉 本 一 彦	藤 岡 敏 和	大 井 知 美	溝 口 孝 博	家 高 千 枝	小 林 浩 二	熊 谷 美 里	小 松 智 也	杉 本 一 彦	橋 渡 博 之	浅 村 昌 章	松 原 厚 志	末 松 厚 志	西 村 郁 子	橋 渡 博 之	川 原 智 美
木 戸 口 光	滝 沢 英 幸	丸 山 輝 光	保 科 庄 志	鎌 倉 正 和	洪 谷 治 伸	上 田 丈 雄	下 形 今 朝 己	宮 本 均 志	武 居 裕 道	巾 勝 幸	奥 原 謙 吾	木 下 直 久	安 田 勇 次	原 健 二	小 林 敏 樹	中 村 悟	田 本 修	新 井 秀 樹	山 本 通 明	小 川 洋 生	小 林 敏 樹	古 谷 裕 二	河 越 崇 宏	狩 戸 知 喜	池 上 正 孝	古 川 力	塚 本 学	小 松 実	高 橋 智 美	都 筑 勝	上 田 直 樹	清 水 一 人	近 藤 健 一	小 松 実	牧 慎 也	久 保 島 友 治	近 藤 賢 一	都 筑 勝	小 林 剛 志	山 本 正 彦	古 瀬 美 樹	田 中 正 則	小 川 洋 生	青 木 千 春	鎌 倉 正 和	田 中 剛	生 徒 会 長	昭 和 63 年 度	荻 村 美 樹	大 井 知 美	田 中 義 治	野 村 章 次	芝 波 田 豊	村 井 正 仁	藤 井 勝	原 和 永	三 浦 基 功	可 知 光 輝	横 井 松 司	中 澤 聡	古 瀬 憲 治	森 裕 司	仙 石 幸 男	荻 村 美 樹	横 井 松 司	吉 田 薫	佐 藤 勝 矢	久 保 島 友 治	吉 田 薫	翁 像 透	校 風 局 長	小 林 雄 一	河 口 晃	高 山 曉 美	高 谷 由 美	田 中 由 美	小 林 雄 一	末 松 厚 志	杉 本 一 彦	藤 岡 敏 和	大 井 知 美	溝 口 孝 博	家 高 千 枝	小 林 浩 二	熊 谷 美 里	小 松 智 也	杉 本 一 彦	橋 渡 博 之	浅 村 昌 章	松 原 厚 志	末 松 厚 志	西 村 郁 子	橋 渡 博 之	川 原 智 美					

副 〃	評 議 員 長	副 〃	体 育 局 長	副 〃	文 化 局 長	副 〃	校 風 局 長	副 〃	財 務 局 長	副 〃	書 記 局 長	副 〃	生 徒 会 長	平 成 13 年 度	副 〃	監 査 委 員 長	副 〃	評 議 員 長	副 〃	体 育 局 長	副 〃	文 化 局 長	副 〃	向 井 ち な み	副 〃	監 査 委 員 長	木 目 尻 翼
花 岡 光 太 朗	千 村 理 恵	木 下 珠 恵	梶 川 渉	奥 原 健	向 井 美 幸	谷 口 友 人	小 林 聖	渡 辺 亮 太	中 西 栄 二	大 畑 光	奥 原 和 幸	近 藤 暖 恵	古 野 秀 幸	越 元 樹	田 口 富 大	森 田 直 宏	奥 原 秀 一	太 目 匠	丸 太 正 治	杉 本 由 美 子	土 川 隼	中 越 千 絵	副 〃	副 〃	安 原 千 夏	副 〃	副 〃

17、PTA役員名簿

各年度の『学校要覧』より。ただし昭和二六年度から三九年度までは、PTA役員名の記載がない。また二四年度の『学校要覧』のみ現存しないので、この年度も不明である。

副 〃	副 〃	PTA 会 長	名 誉 会 長	昭 和 41 年 度	副 〃	副 〃	副 〃	昭 和 40 年 度	PTA 会 長	副 〃	副 〃	昭 和 25 年 度	PTA 会 長	副 〃	副 〃	副 〃	昭 和 23 年 度	PTA 会 長	副 〃	副 〃	昭 和 42 年 度	名 誉 会 長	副 〃	副 〃	副 〃	昭 和 43 年 度	名 誉 会 長	副 〃	副 〃	昭 和 44 年 度	名 誉 会 長	副 〃	副 〃	昭 和 45 年 度	名 誉 会 長	PTA 会 長		
北 村 倉 太	原 善 造	黒 田 三 郎	鷹 野 貞 雄		北 村 倉 太	原 善 造	黒 田 三 郎		黒 田 三 郎	横 内 鑑 男	花 川 儀 左 門	彦 瀬 広 一		松 岡 治 三 郎	渡 邊 勇	大 木 源 治		鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	大 木 源 治	原 善 造	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄	鷹 野 貞 雄

副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和49年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和48年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和47年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和46年度	副 〃				
小幡充	内山太郎	古畑平一	芦部隆彦		小幡充	塚原隆明	古畑平一	芦部隆彦		塚原隆明	古畑平一	奥原行雄	今井邦男		塚原隆明	三尾義一	奥原行雄	今井邦男		丸田袈裟雄				
副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和54年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和53年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和52年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和51年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和50年度
下條靖弘	児野博光	清水吉平			内山太郎	児野博光	下条睦男	牧野嘉雄		内山太郎	長谷川潔	下条睦男	牧野嘉雄		下条睦男	桜井昭彦	芦部隆彦	桜井昭彦		小幡充	芦部隆彦			
副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和58年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和57年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和56年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和55年度	副 〃				
大島源衛	池戸健二	岡本庄七	橋渡良知		大島源衛	岩本覚	岡本庄七	古川彦次		大島源衛	岡本庄七	下条靖弘	古川彦次		大島源衛	下条靖弘	児野博光	清水吉平		内山太郎				
副 〃	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和62年度	副 〃	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和61年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和60年度	副 〃	副 〃	P T A会長	名誉会長	昭和59年度			
伊藤脩	池戸健二	梶田公雄	吉田紘	二木重光		伊藤脩	牧野幹志	吉田紘	原昭	橋渡良知		吉田紘	植原昭三	原昭	橋渡良知		佐々木弘文	原孝彦	原昭	橋渡良知				

18、蘇門会役員名簿

各年度の『学校要覧』より。ただし昭和二三年度から三九年度までは、蘇門会役員名の記載がない。また二四年度の『学校要覧』のみ現存しないので、この年度も不明である。

副	副	蘇門会長	昭和43年度	副	副	蘇門会長	昭和42年度	副	副	蘇門会長	昭和41年度	副	副	蘇門会長	昭和40年度	副	副	蘇門会長	昭和39年度	
今井邦男	佐藤誠一	中村治郎		鷹野貞雄	佐藤誠一	中村治郎		鷹野貞雄	佐藤誠一	中村治郎		巢山武雄	佐藤誠一	中村治郎						
蘇門会長	昭和47年度			蘇門会長	昭和46年度			蘇門会長	昭和45年度			副	副	蘇門会長	昭和44年度					
中村治郎		今井邦男	黒田三郎	中村治郎	佐藤誠一	今井邦男	黒田三郎	中村治郎	佐藤誠一	今井邦男	黒田三郎	今井邦男	黒田三郎	中村治郎	佐藤誠一					
副	副	蘇門会長	昭和51年度	副	副	蘇門会長	昭和50年度	副	副	蘇門会長	昭和49年度	副	副	蘇門会長	昭和48年度	副	副	蘇門会長	昭和47年度	
黒田三郎	佐藤誠一	中村治郎		黒田三郎	佐藤誠一	中村治郎		黒田三郎	佐藤誠一	中村治郎		黒田三郎	佐藤誠一	中村治郎		今井邦男	黒田三郎	佐藤誠一		
副	副	蘇門会長	昭和55年度	副	副	蘇門会長	昭和54年度	副	副	蘇門会長	昭和53年度	副	副	蘇門会長	昭和52年度	副	副	蘇門会長	昭和51年度	
清水吉平	上垣外久弥	武居芳太	黒田三郎	清水吉平	上垣外久弥	武居芳太	黒田三郎	清水吉平	上垣外久弥	武居芳太	黒田三郎	清水吉平	上垣外久弥	武居芳太	黒田三郎	佐藤誠一	黒田三郎	中村治郎	佐藤誠一	
																				芦部隆彦

平成13年度	副	副	副	副	蘇門会長	平成12年度	副	副	副	副	蘇門会長	平成11年度	副	副蘇門会長	副	副	蘇門会長	平成10年度	副	副		
蘇門会長	〃	〃	〃	〃	蘇門会長	〃	〃	〃	〃	蘇門会長	〃	〃	〃	副蘇門会長	〃	〃	蘇門会長	平成10年度	〃	〃		
村井定男	橋詰政勝	鈴木利男	三浦清一郎	小林和夫	村井定男	〃	〃	〃	〃	蘇門会長	〃	〃	〃	永田勝男	新井増雄	三浦清一郎	村井定男	日野文平	〃	〃		
																			副	副		
																			〃	〃		
																			橋詰政勝	鈴木利男	三浦清一郎	小林和夫

21、卒業生数

① 旧制山林学校卒業生

卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数
1	明治37	28	11	大正 3	23	21	大正13	60	31	昭和 9	38	41	18.12	100
2	38	34	12	4	44	22	14	52	32	10	38	42	20. 3	98
3	39	30	13	5	47	23	15	48	33	11	44	43	21	96
4	40	28	14	6	38	24	昭和 2	45	34	12	44	44	22	99
5	41	26	15	7	38	25	3	49	35	13	48	45	23	59
6	42	28	16	8	48	26	4	47	36	14	47	46	24	37
7	43	29	17	9	51	27	5	42	37	15	49	47	25	※ 6
8	44	27	18	10	40	28	6	49	38	16. 3	46			
9	45	25	19	11	44	29	7	40	39	16.12	94			
10	大正 2	33	20	12	51	30	8	42	40	17.12	96			

※この年の6人は、昭和22年に設置された木材工芸科の卒業。

② 旧制木工専修科卒業生

卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数	卒業回数	卒業年	人数
1	昭和 5	27	2	6	17	3	7	13	4	8	11	5	9	4

③ 新制山林高校卒業生

卒業回数	卒業年	林業科	木材工芸科・工芸科 インテリア科	計	卒業回数	卒業年	林業科	木材工芸科・工芸科 インテリア科	計
1	昭和24	47		47	28	51	58	インテリア科 38(5)	96(5)
2	25	62		62	29	52	74	40	114
3	26	89	木材工芸科 35	124	30	53	80	42(4)	122(4)
4	27	80	17	97	31	54	78	36	114
5	28	84	15	99	32	55	82	41(1)	123(1)
6	29	85	34	119	33	56	85	42(2)	127(2)
7	30	82	29	111	34	57	78	38(2)	116(2)
8	31	91	36	127	35	58	84	41	125
9	32	89	40	129	36	59	84	43(5)	127(5)
10	33	86	35	121	37	60	64	36(8)	100(8)
11	34	85	34	119	38	61	62	43(4)	105(4)
12	35	102	48	150	39	62	73	40(15)	113(15)
13	36	96	49	145	40	63	68(1)	41(17)	109(18)
14	37	103	43	146	41	平成元	70(12)	33(10)	103(22)
15	38	86	44	130	42	2	72(18)	35(9)	107(27)
16	39	73	17	90	43	3	73(3)	39(23)	112(26)
17	40	84	23	107	44	4	77(14)	36(16)	113(30)
18	41	95	工芸科 48(7)	143(7)	45	5	77(26)	40(16)	117(42)
19	42	95	49(6)	144(6)	46	6	75(18)	38(20)	113(38)
20	43	96	48(2)	144(2)	47	7	76(11)	38(16)	114(27)
21	44	94	46(11)	140(11)	48	8	77(12)	35(10)	112(22)
22	45	93	45(7)	138(7)	49	9	75(21)	38(22)	113(43)
23	46	89	39(11)	128(11)	50	10	69(20)	38(14)	107(34)
24	47	79	38(4)	117(4)	51	11	74(14)	40(15)	114(29)
25	48	83	41(11)	124(11)	52	12	55(14)	40(25)	95(39)
26	49	75	38(8)	113(8)	53	13	62(16)	38(25)	100(41)
27	50	78	41(7)	119(7)					

④ 卒業生総数（明治37～平成13年3月）

（旧制）

林業科	2, 219
木工専修科	72
木材工芸科	6
小計	2, 297

（新制）

林業科	4, 203 (200)
木材工芸科	499
工芸科	433 (74)
インテリア科	1, 009 (284)
小計	6, 144 (558)
総計	8, 441 (558)

() 内は女子

22、本校の位置と沿革

一、位置

長野県木曾郡木曾福島町新開四二三六 (標高793.114m 北緯
35°51'19"7 東経137°42'27"9)

の継続事業として経費六六、七六三円三五銭で
新築工事の件可決。

明治43・2・5 長野県立甲種山林学校の位置を新開村に変更の
件認可。

明治44・11・ 長野県立木曾山林学校と改称。

明治45・4・ 福島町所在の実習地一部を返却し、新築校舎に

接続の土地、畑、山林、原野六筆計四反三畝五
歩を借地す。

二、沿革

(1) 創立

明治三三年(一九〇〇年) 一月二十九日 設立認可

明治三四年(一九〇一年) 五月一日 開校式(開校記念日)

大正1・10・1 新築校舎竣工移転。(新開村)

大正2・4・ 福島町所在の実習地残部を返却し、校舎隣接地、
畑、山林七筆二反四畝一〇歩を借地す。

大正3・6・ 校歌制定。

大正4・2・27 校旗制定。

大正6・5・ 演習林への木橋架設。

大正6・9・ 実習地として校舎隣接地、水田、畑、原野四筆
計三反一七歩を借地。

(2) 沿革概要

明治33・2・10 西筑摩郡に郡立実業学校設立の議起る。

同年一〇月郡会において乙種程度の山林学校設
立全会一致可決。

明治33・10・29 郡立乙種山林学校設立認可。

明治34・4・20 西筑摩郡高等小学校校舎使用、授業開始。生徒
六七名。

明治34・5・15 開校式挙行。

明治34・7・19 甲種山林学校設立認可。

明治35・4・ 演習林設置。

(裏山演習林、大平山演習林)

明治37・3・ 第一回卒業生28名。

明治38・12・ 長野県議会において三九年より県立移管可決。

明治39・2・10 県立移管の件文部大臣より認可。(県立移管)

明治41・12・ 長野県議会において四二年度より向こう四ヶ年

昭和8・11・3 創立三〇周年記念式挙行。

- 昭和14・4・1 一学年一〇〇名募集。
- 昭和19・4・1 長野県林業技術員養成所併設。(昭和22・5・12廃止)
- 昭和22・4・1 木材工芸科設置。
- 昭和23・3・31 木材工芸科木工工場、機械工場落成。
- 昭和23・4・1 長野県木曾山林高等学校と改称。
- 昭和23・6・1 定時制課程併設。榑川、上松、大桑、読書の四ヶ町村に分校を設置。
- 昭和26・3・18 創立五〇周年記念式挙行。
- 昭和26・3・31 講堂改築工事落成。
- 昭和27・4・1 定時制課程を木曾東高校に移管。
- 昭和28・5・30 木材乾燥室落成。
- 昭和30・11・30 上水道工事竣工。(昭和41・10改修)
- 昭和31・3・31 製図室落成。
- 昭和34・3・31 木材倉庫落成。
- 昭和35・3・ 長野県議会において向こう三ヶ年継続事業として校舎全面改築の件可決。
- 昭和35・12・4 校舎改築起工式。
- 昭和36・10・20 第一期工事本館落成。
- 昭和37・7・8 第二期工事管理棟落成。
- 昭和37・11・ 第二期工事林業科、工芸科実習棟落成。
- 昭和38・4・1 木材工芸科を工芸科と改称。コース制設置。
(加工・デザインコース)
- 昭和38・6・21 第三期工事事体館落成。
- 昭和38・8・12 第三期工事寄宿舎落成。
- 昭和38・10・25 校舎落成、創立六〇周年記念式典挙行。
- 昭和39・10・1 旧講堂改装移転・合宿所改装移転。
- 昭和40・8・28 校庭拡張整備。
- 昭和41・3・5 蘇門林設置。(八・五ha)
- 昭和41・3・31 演習林管理室落成。
- 昭和42・4・1 林業科コース制設置。(経営・林産・土木コース)
- 昭和43・4・1 第五次(昭和四三、四四年)長野県体育教育研究校指定。(長野県教委)
- 昭和44・4・1 一学年林業科九五名、工芸科四五名募集。
- 昭和44・10・15 自家用発電設備(変電装置)完成。
- 昭和45・4・1 一学年林業科八五名、工芸科四五名募集。
- 昭和46・4・1 昭和四六年度修学旅行研究校指定。(日本修学旅行協会、長野県教委)
- 昭和47・3・27 第二林業棟・格技室落成。
- 昭和47・4・1 一学年林業科八〇名、工芸科四〇名募集。
- 昭和47・5・14 創立七〇周年記念式典挙行。
- 昭和48・4・1 工芸科をインテリア科と改称。
- 昭和48・8・7 全国・関東林業教育研究会開催。
- 昭和49・3・20 耐火倉庫、薬品保管倉庫新設。
- 昭和49・11・30 校庭排水工事完成。
- 昭和50・3・31 町営水道工事完成。
- 昭和50・4・1 昭和五〇、五一年度高等学校生徒指導研究推進校指定。(文部省)
- 昭和五〇年度長野県同和教育研究校指定。(長野県教委)
- 昭和50・6・10 野球バックネット改装。

昭和51・3・31	地方教育費調査文部大臣表彰。	昭和57・11・20	グランド排水工事（二工区）竣工。
昭和51・4・1	昭和五一年度長野県同和教育研究校指定。（長野県教委）	昭和57・11・29	文化系クラブ練習室新築。
	林業科苗畑（一、〇四四㎡）借地契約。	昭和57・12・8	城山橋改修。
昭和52・1・10	寄宿舎全自動温水ボイラー設置。	昭和58・3・30	グランド排水工事（二工区）竣工。
昭和52・8・16	本館廊下ロントリーム張替え。	昭和58・3・30	校内舗装工事竣工。
昭和52・9・6	第二林業棟渡り廊下設置。	昭和58・8・8	（9）全国・関東林業教育研究会開催。
昭和52・9・30	林業科苗畑（二、四五二㎡）を長野県林業大学校建設用地として林務部へ移管。	昭和58・9・12	体育館床改修。
昭和52・10・1	林業科苗畑（三六六㎡）借地契約。	昭和58・10・31	本館屋根補修。
昭和53・4・18	昭和五三年度教科書（数学ⅡA、倫理社会、保健体育）研究協力校指定。（文部省）	昭和58・12・20	森林土木実習室新築。
昭和54・1・31	部室新築。（一棟三戸建三三・八五㎡）	昭和59・6・23	魅力ある高校づくりでパーソナルコンピュータ（NECPC8801mkⅡ）二二台設置。
昭和54・3・31	苗畑基盤整備完成。（一、〇八〇㎡）	昭和59・10・24	（25）第三五回日本学校農業クラブ全国大会、長野大会の歓迎の集いに出演。
昭和54・4・	林業科苗畑（一、〇七一㎡）借地契約。	昭和59・11・6	成人大学講座（やさしいパソコン教室）開催。（五九、六〇年度）
昭和54・12・	視聴覚機器、林業科特別設備（集材機等）の整備充実。	昭和59・11・30	インテリア科に数値制御工作機（NCルーター）設置。
昭和55・3・31	グランド拡張整備。（第一期工事）	昭和60・12・1	学校西の水田約三、〇〇〇㎡を買収し、テニスコート（三面）造成。
昭和55・3・31	体育研究室、更衣室、器具室増改築工事竣工。	昭和61・3・25	材料試験実習室改修、家庭科実習室とする。
昭和55・4・1	日本学校農業クラブ連盟へ加入。	昭和61・3・27	校名碑建立。
昭和56・3・31	クラブ活動施設（合宿所）新築。	昭和61・4・1	林業科のコースを経営、土木、情報の三コース制とする。
昭和56・3・31	グランド拡張整備。（第二期工事）	昭和61・6・21	創立八五周年記念式典挙行。
昭和56・4・1	昭和五六、五七年度高等学校生徒指導研究推進校の指定。（文部省）	昭和62・3・19	インテリア棟仮設校舎竣工。
昭和56・6・2	蘇門会館新築。	昭和62・6・13	成人大学講座（盆栽・レタリング）開講。
昭和56・10・25	創立八〇周年記念式典挙行。		

- 昭和62・10・22 機械室棟、便所棟改築竣工。
- 昭和63・2・19 インテリア科棟、陶芸室改築竣工。
- 昭和63・3・23 インテリア科棟仮設校舎解体撤去。
- 昭和63・7・8 プール竣工。
- 昭和63・7・13 インテリア棟、プール完成式典挙行。
- 昭和63・9・13 工業高校技術教育推進事業で、図形処理システム（パーソナルコンピュータPanacom M7 00、二三台他）設置。
- 平成元・8・3 寄宿舎解体。
- 平成元・8・22 グランド西側防球フェンス改修。
- 平成元・9・13 視聴覚・LL教室設置。
- 平成2・6・30 学校開放講座（盆栽・実用パソコン）開講。
- 平成2・9・10 寄宿舎改築竣工。
- 平成2・12・14 産業教育振興費国庫負担事業でパソコンネットワークシステム（パソコンNEC PC9801RS、二一台他）設置。
- 平成3・3・27 焼却炉改築竣工。
- 平成3・6・2 創立九〇周年記念式典挙行。
- 平成3・6・20 学校開放講座（パソコン活用）開講。
- 平成4・7・28～29 全国高等学校インテリア科教育研究大会開催。
- 平成4・8・10 林業科棟仮設校舎竣工。
- 平成4・9・28 第一、第三林業棟、講堂、音楽室解体。
- 平成6・3・3 林業体育特別教室棟竣工引受（合併処理浄化槽一基含む）。
- 平成6・4・1 林業科のコースを森林科学、土木工学、情報流通の三コース制とし、インテリア科を生産工学、情報デザインの新コース制とする。
- 平成6・6・22 林業体育特別教室棟完成式典挙行。
- 平成6・7・28 全国高等学校林業教育研究協議会開催。
- 平成6・8・25 高等学校開放講座（パソコン入門）開講。
- 平成8・8・30 県民カルチャー高等学校開放講座（はじめての人の木彫）開講。
- 平成8・7～12 本館大規模改修。
- 平成9・5・12 「基礎学力補充時間」を日課のなかに設定。
- 平成9・7・6 長野県学校農業クラブ連盟各種県大会開催。
- 平成9・7・16 東京都世田谷区祖師谷にアンテナショップを開設。
- 平成9・9～11 ネパールからの外国人研修生を受け入れ。
- 平成9・10・19 ひのき祭で「全国専門高校物産フェア」を開催。
- 平成9・11・18 箕輪光博東大教授による特別授業を開講。
- 平成10・5・15 開講記念日、元林野庁長官小沢普照氏講演。
- 平成10・10・17 TBS系「筋肉番付」ひのき祭に来校。（全国放映）
- 平成11・4・12 創立一〇〇周年実行委員会結成。
- 平成12・3・23 林業科パソコン更新。
- 平成13・5・19 蘇水会館（一〇〇周年記念事業）完成。
- 平成13・9・30 管理棟大規模改修。
- 平成13・10・6 創立一〇〇周年記念式典挙行。
- 平成13・10・6 『山霊生英傑』創立一〇〇周年記念誌発刊
- 平成6・4・1 林業科のコースを森林科学、土木工学、情報流